

鈴鹿市学校規模適正化基礎調査

報告書

平成29年3月

鈴鹿市教育委員会

目 次

序 調査の目的等.....	1
(1) 調査の背景・目的.....	1
(2) 調査対象.....	1
1 市内小中学校の児童生徒数の推移や課題等の整理.....	2
(1) 児童生徒数・学級数の推移.....	2
(2) 将来の人口動向.....	6
(3) 学校施設の状況.....	8
(3) 課題の整理.....	10
2 児童生徒数の試算と課題等の整理.....	11
(1) 試算のための条件設定.....	11
(2) 児童生徒数の試算結果.....	19
(3) 児童生徒数の試算結果からみた課題整理.....	21
3 教室数の試算.....	22
(1) 学級編制の設定.....	22
(2) 普通学級数と教室数の試算.....	22
4 将来的に適正規模の学校.....	26
(1) 国・県における適正規模の考え方.....	26
(2) 本市における学校規模設定の考え方.....	26
(3) 適正な学校規模と考えられる学校.....	28
(4) 学校ごとの問題・課題の整理.....	32
5 学校規模適正化基本方針等策定のための基礎資料.....	35
(1) 検討対象学区，学校.....	35
(2) 検討事項の設定.....	35
参考資料	
参考資料 1 他分野の施設と連携した再編可能性の検討.....	47
参考資料 2 市内の開発状況.....	63

序 調査の目的等

(1) 調査の背景・目的

近年になって、家庭や地域社会における子どもの社会性育成機能の低下や少子化の進展が中長期的に継続することが見込まれること等を背景として、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されている。

このことから国においては、公立小・中学校を所管する市町村教育委員会が、学校統合の適否又は小規模校を存置する場合の充実策等を検討する際の、基本的な方向性や考慮すべき要素、留意点等をまとめた「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」が策定された。(平成 27 年 1 月 27 日付け文部科学省通知) 本市においても、小学校の児童数は平成 21 年度の 13,000 人、中学校の生徒数は平成 25 年度の 6,200 人をピークに児童生徒数の減少方向に入っており、新生児が少なく人口減少が進む地域がある一方、市街化区域における開発の増加も加わって、過密化が懸念される地域もあり、地域的な偏在が加速することが予測される。

これらのことから、本業務は、小中学校の適正規模、適正配置を行うための児童生徒数の中長期的推移の基礎調査を行い、平成 29 年度以降に学校規模適正化基本方針等を策定することを想定した、基礎資料を作成することを目的とする。

なお、今回の調査は、将来の児童生徒数の予測を基とした基礎調査であって、調査結果を踏まえて、今後の本市の対応を考えていくことになるが、児童生徒数については何通りかの算出方法で推測しており、条件設定によって将来の児童生徒数に大きな差が生じる。

一部、具体的な検討事項等を示した箇所もあるが、児童生徒数の予測に差があることを踏まえたうえで、あくまでも現時点で考えられる可能性を示したものである。具体的な対応策等については、今回の調査結果を踏まえ、次年度に基本方針等を作成し、その後も継続して検討していく。

(2) 調査対象

本調査の対象施設は、鈴鹿市立小中学校とし、小学校 30 校、中学校 10 校の計 40 校とする。

1 市内小中学校の児童生徒数の推移や課題等の整理

小中学校について、これまでの児童生徒数の推移や課題等を整理する。

(1) 児童生徒数・学級数の推移

① 小学校児童数・普通学級数の推移

1) 市内全体

市内の小学校児童数は、平成 21 年度の 13,000 人をピークに減少傾向となっており、平成 28 年度は 11,443 人となっている。学級数も同様に減少傾向であり、平成 28 年度は 420 学級となっている。

図表. 小学校児童数の推移



(各年 5 月 1 日現在)

2) 小学校別

小学校 30 校のうち 4 校（稲生小，合川小，鈴西小，井田川小）は、平成 28 年度の児童数が平成 21 年度よりも増加しているが、その他の小学校では減少か同数となっている。

学級数も同様の傾向であり、3 校（稲生小，鈴西小，深伊沢小）以外では減少あるいは同数となっている。

図表. 小学校別の児童数推移

											H21から増加	
	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H28/H21	
											増減数	率
1 国府小	445	417	412	410	400	372	370	371	369	367	△ 45	89.1%
2 庄野小	316	334	337	356	353	357	351	339	347	329	△ 8	97.6%
3 加佐登小	527	524	523	512	491	463	445	408	386	356	△ 167	68.1%
4 牧田小	462	462	458	465	452	456	446	441	448	425	△ 33	92.8%
5 清和小	336	341	338	322	327	330	329	322	313	300	△ 38	88.8%
6 石薬師小	410	413	416	398	389	411	393	378	362	345	△ 71	82.9%
7 白子小	536	563	559	546	542	510	493	472	467	478	△ 81	85.5%
8 鼓ヶ浦小	248	245	237	216	212	193	172	165	158	164	△ 73	69.2%
9 旭が丘小	846	921	956	981	974	997	990	964	936	900	△ 56	94.1%
10 桜島小	752	761	795	805	787	795	769	789	758	773	△ 22	97.2%
11 愛宕小	565	586	587	578	566	552	546	517	498	465	△ 122	79.2%
12 稲生小	628	624	642	629	653	641	667	699	708	734	92	114.3%
13 飯野小	571	612	633	654	652	622	642	616	637	608	△ 25	96.1%
14 明生小	351	364	352	312	310	306	286	279	276	293	△ 59	83.2%
15 河曲小	619	584	564	537	527	515	505	515	513	505	△ 59	81.5%
16 一ノ宮小	640	645	664	643	642	601	583	560	527	508	△ 156	76.5%
17 長太小	480	469	487	473	467	457	435	408	406	406	△ 81	83.4%
18 箕田小	341	348	342	358	348	345	330	331	328	306	△ 36	89.5%
19 若松小	429	434	434	424	405	405	400	388	375	355	△ 79	81.8%
20 玉垣小	792	806	788	800	782	749	744	748	764	742	△ 46	94.2%
21 神戸小	740	777	783	757	709	688	695	645	668	638	△ 145	81.5%
22 合川小	105	103	88	85	68	65	68	67	87	90	2	102.3%
23 天名小	88	96	96	97	95	84	92	91	97	96	0	100.0%
24 栄小	254	264	263	259	247	238	217	201	203	200	△ 63	76.0%
25 郡山小	484	452	409	399	369	330	298	278	285	279	△ 130	68.2%
26 鈴西小	229	228	232	231	237	215	224	232	231	246	14	106.0%
27 椿小	163	154	152	159	156	158	141	137	125	134	△ 18	88.2%
28 深伊沢小	169	172	173	179	187	172	176	176	163	156	△ 17	90.2%
29 庄内小	152	146	147	139	115	109	100	97	95	88	△ 59	59.9%
30 井田川小	116	128	133	123	129	130	142	138	152	157	24	118.0%
合計	12,794	12,973	13,000	12,847	12,591	12,266	12,049	11,772	11,682	11,443	△ 1,557	88.0%

各年5月1日現在

ピーク

図表. 小学校別の普通学級数推移

											H20から増加	
	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H28/H20	
											増減数	率
1 国府小	16	15	15	14	13	13	13	13	13	14	△ 1	93.3%
2 庄野小	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	0	100.0%
3 加佐登小	17	18	18	18	17	16	16	15	14	13	△ 5	72.2%
4 牧田小	15	16	17	18	17	17	16	15	17	15	△ 1	93.8%
5 清和小	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	0	100.0%
6 石薬師小	14	14	15	14	14	15	14	13	13	13	△ 1	92.9%
7 白子小	19	19	19	19	19	18	18	17	17	16	△ 3	84.2%
8 鼓ヶ浦小	11	10	9	9	9	8	6	6	7	7	△ 3	70.0%
9 旭が丘小	27	31	31	32	32	32	32	31	31	30	△ 1	96.8%
10 桜島小	24	25	25	25	25	26	26	27	25	25	0	100.0%
11 愛宕小	17	20	20	20	19	18	18	18	18	17	△ 3	85.0%
12 稲生小	20	20	20	21	21	21	22	22	23	25	5	125.0%
13 飯野小	21	22	21	22	22	22	23	22	23	22	0	100.0%
14 明生小	12	13	12	11	12	12	12	11	11	11	△ 2	84.6%
15 河曲小	20	19	18	18	18	18	17	17	18	18	△ 1	94.7%
16 一ノ宮小	22	22	23	22	23	22	20	19	18	18	△ 4	81.8%
17 長太小	17	17	18	18	18	18	15	14	14	15	△ 2	88.2%
18 箕田小	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	0	100.0%
19 若松小	15	15	14	14	14	15	15	14	14	12	△ 3	80.0%
20 玉垣小	26	26	26	26	26	25	24	25	26	25	△ 1	96.2%
21 神戸小	24	25	25	25	24	22	22	22	22	21	△ 4	84.0%
22 合川小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	100.0%
23 天名小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	100.0%
24 栄小	11	12	12	12	12	11	10	7	8	8	△ 4	66.7%
25 郡山小	16	16	15	15	13	12	12	12	11	11	△ 5	68.8%
26 鈴西小	9	9	9	10	11	10	10	9	10	11	2	122.2%
27 椿小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	100.0%
28 深伊沢小	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	1	116.7%
29 庄内小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	100.0%
30 井田川小	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	100.0%
合計	445	456	454	455	452	444	434	422	426	420	△ 36	92.1%

各年5月1日現在

ピーク

②中学校児童数・普通学級数の推移

1) 市内全体

市内の中学校生徒数は、平成 25 年度の 6,200 人をピークに減少傾向となっており、平成 28 年度は 5,810 人となっている。学級数も同様に減少傾向であり、平成 28 年度は 175 学級となっている。

図表. 中学校生徒数の推移



(各年 5 月 1 日現在)

2) 中学校別

中学校 10 校のうち白子中は、平成 28 年度の生徒数が平成 25 年度よりも増加しているが、その他の中学校では減少している。

学級数も同様の傾向であり、白子中、千代崎中は同数であるが、この 2 校以外は減少している。

図表. 中学校別の生徒数推移

											H25から増加	
	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H28/H25	
											増減数	率
1 平田野中	430	451	467	471	479	503	511	488	474	445	△ 66	87.1%
2 創徳中	576	605	601	594	648	644	698	668	684	675	△ 23	96.7%
3 白鳥中	501	507	505	549	563	565	555	550	555	531	△ 24	95.7%
4 神戸中	816	859	842	884	905	942	952	962	948	902	△ 50	94.7%
5 大木中	463	484	474	473	481	496	524	501	489	461	△ 63	88.0%
6 千代崎中	552	547	573	563	596	589	599	585	580	595	△ 4	99.3%
7 白子中	873	919	962	968	1,035	1,040	1,065	1,044	1,110	1,096	31	102.9%
8 鼓ヶ浦中	517	476	468	480	526	520	529	518	488	457	△ 72	86.4%
9 天栄中	471	438	446	436	446	424	427	409	360	361	△ 66	84.5%
10 鈴峰中	332	322	320	302	316	321	340	326	317	287	△ 53	84.4%
合計	5,531	5,608	5,658	5,720	5,995	6,044	6,200	6,051	6,005	5,810	△ 390	93.7%

各年5月1日現在

ピーク

図表. 中学校別の普通学級数推移

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H28/H25	
											増減数	率
1 平田野中	13	14	15	15	15	16	16	14	14	13	△ 3	81.3%
2 創徳中	17	20	17	18	19	19	20	20	20	19	△ 1	95.0%
3 白鳥中	15	15	15	16	17	18	17	16	17	16	△ 1	94.1%
4 神戸中	26	25	24	26	26	27	28	28	28	27	△ 1	96.4%
5 大木中	15	15	15	15	15	15	16	15	15	15	△ 1	93.8%
6 千代崎中	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	0	100.0%
7 白子中	27	28	29	29	31	31	31	30	31	31	0	100.0%
8 鼓ヶ浦中	16	15	14	14	16	16	16	16	15	15	△ 1	93.8%
9 天栄中	14	13	13	13	14	14	13	13	11	11	△ 2	84.6%
10 鈴峰中	12	11	11	10	11	11	12	11	11	10	△ 2	83.3%
合計	172	173	170	173	182	185	187	181	180	175	△ 12	93.6%

各年5月1日現在

ピーク

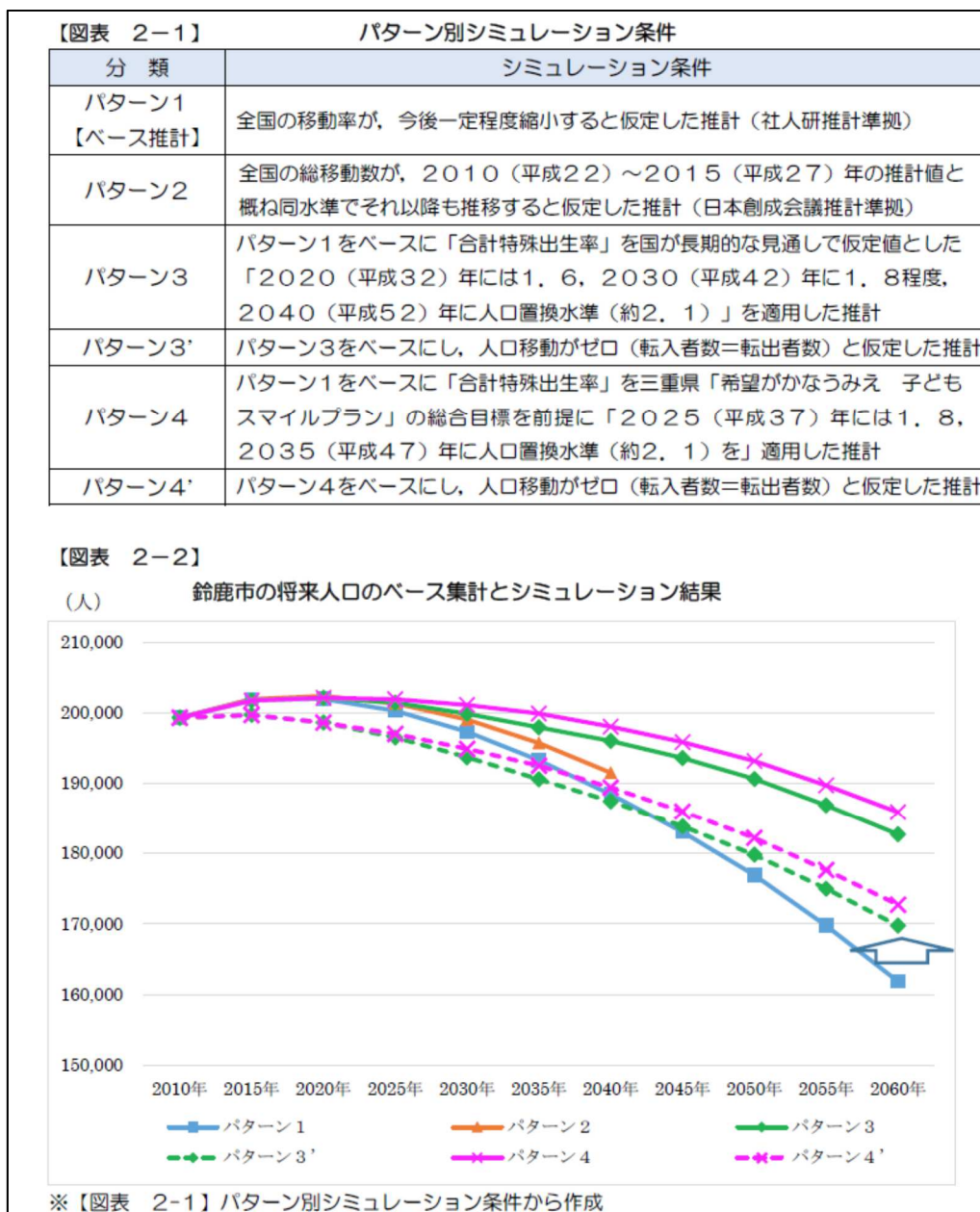
(2) 将来の人口動向

①人口ビジョンによる将来人口動向

本市の人口は、2015（平成 27）年国勢調査確報値で 196,403 人であり、2010（平成 22）年の 199,293 人から 2,890 人減少している。

「鈴鹿市人口ビジョン」（2016 年 3 月）では、合計特殊出生率と移動人口の設定により複数のパターンで人口推計を行っており、すべてのケースにおいて、全国的な動向と同様に、今後さらなる人口減少が進むと予測している。

図表. 人口の見通し



資料出典：鈴鹿市人口ビジョン（2016 年 3 月）

②年少人口の動向

鈴鹿市人口ビジョンによれば、小中学校の児童生徒数推計の基礎となる年少人口（15歳未満人口）は、全てのシミュレーションケースにおいて減少すると推計している。2040（平成52）年と2010（平成22）年とを比較すると、推計ケースによって異なるが、71%～97%まで減少すると推計している。

図表. 年齢3区分別の人口推計

【図表 2-6】					
人口の減少段階（鈴鹿市）					
シミュレーションパターン	区分	2010年 (人)	2040年 (人)	2010年を100とした場合の2040年の指数	人口減少段階
パターン1	老年人口	39,159	62,467	160	1
	生産年齢人口	129,578	104,254	80	
	年少人口	30,557	21,726	71	
パターン2	老年人口	39,159	63,078	161	1
	生産年齢人口	129,578	106,384	82	
	年少人口	30,557	22,038	72	
パターン3	老年人口	39,159	62,467	160	1
	生産年齢人口	129,578	105,385	81	
	年少人口	30,557	28,159	92	
パターン3'	老年人口	39,159	60,271	154	1
	生産年齢人口	129,578	100,103	77	
	年少人口	30,557	27,069	89	
パターン4	老年人口	39,159	62,467	160	1
	生産年齢人口	129,578	105,891	82	
	年少人口	30,557	29,686	97	
パターン4'	老年人口	39,159	60,271	154	1
	生産年齢人口	129,578	100,593	78	
	年少人口	30,557	28,544	93	

※【図表 2-3】将来人口シミュレーション結果別の人口構造から一部抜粋

資料出典：鈴鹿市人口ビジョン（2016年3月）

(3) 学校施設の状況

①小学校

小学校 30 校のうち、10 年以内に校舎の全面改築を実施した学校は、僅か 1 校に留まっている。また、そのほかの 29 校では、建築年度が最も新しい学校においても、築年数 20 年超が経過しているため、施設の老朽化対策が課題となっている。今後、残る 29 校の小学校の施設について、建替えや大規模改修等の工事を中長期的かつ継続的に実施する必要があり、多額の工事費が必要となる。

図表. 小学校の施設状況

No	施設名	地区	管理形態	建築年度 (最も古い建物)	築年数	総延床面積 (㎡)
1	国府小学校	国府	直営	昭和52	39	5,718
2	庄野小学校	庄野	直営	昭和49	42	3,981
3	加佐登小学校	加佐登	直営	昭和46	45	4,811
4	明生小学校	牧田	直営	昭和58	33	4,593
5	牧田小学校	牧田	直営	昭和46	45	5,625
6	清和小学校	牧田	直営	昭和59	32	3,743
7	石薬師小学校	石薬師	直営	昭和48	43	4,948
8	旭が丘小学校	白子	直営	平成18	10	11,652
9	鼓ヶ浦小学校	白子	直営	昭和54	37	4,982
10	白子小学校	白子	直営	昭和47	44	7,154
11	愛宕小学校	白子	直営	昭和51	40	5,330
12	稲生小学校	稲生	直営	昭和54	37	5,635
13	飯野小学校	飯野	直営	昭和51	40	5,922
14	河曲小学校	河曲	直営	昭和46	45	5,077
15	一ノ宮小学校	一ノ宮	直営	昭和44	47	5,813
16	長太小学校	一ノ宮	直営	昭和41	50	5,405
17	箕田小学校	箕田	直営	昭和55	36	3,659
18	玉垣小学校	玉垣	直営	昭和52	39	7,312
19	桜島小学校	玉垣	直営	昭和57	34	5,597
20	若松小学校	若松	直営	昭和49	42	4,564
21	神戸小学校	神戸	直営	昭和58	33	6,871
22	栄小学校	栄	直営	昭和59	32	3,609
23	郡山小学校	栄	直営	平成3	25	6,671
24	天名小学校	天名	直営	昭和41	50	2,270
25	合川小学校	合川	直営	昭和43	48	2,956
26	井田川小学校	井田川	直営	昭和54	37	2,664
27	椿小学校	椿	直営	昭和49	42	2,789
28	鈴西小学校	深伊沢	直営	昭和62	29	4,314
29	深伊沢小学校	鈴峰	直営	昭和46	45	3,542
30	庄内小学校	庄内	直営	昭和44	47	2,764

築年数は平成 28 年度末時点

総延床面積は、鈴鹿市公共施設マネジメント白書（平成 27 年 3 月）による

②中学校

中学校 10 校のうち、10 年以内に校舎の全面改築を実施した学校は 2 校あるが、そのほかの 8 校では建築後、30 年以上が経過し、施設の老朽化対策が課題となっている。今後、残る 8 校の中学校の施設について、建替えや大規模改修等の工事を中長期的かつ継続的に実施する必要がある、多額の工事費が必要となる。

図表. 中学校の施設状況

No	施設名	地区	管理形態	建築年度 (最も古い建物)	築年数	総延床面積 (㎡)
1	平田野中学校	国府	直営	平成26	2	10,928
2	白鳥中学校	加佐登	直営	昭和39	52	6,874
3	白子中学校	白子	直営	昭和36	55	8,624
4	鼓ヶ浦中学校	白子	直営	昭和53	38	6,698
5	創徳中学校	飯野	直営	昭和58	33	7,009
6	神戸中学校	河曲	直営	平成22	6	13,168
7	大木中学校	箕田	直営	昭和37	54	5,953
8	千代崎中学校	玉垣	直営	昭和38	53	6,260
9	天栄中学校	栄	直営	昭和46	45	5,837
10	鈴峰中学校	鈴峰	直営	昭和56	35	5,475

築年数は平成 28 年度末時点

総延床面積は、鈴鹿市公共施設マネジメント白書（平成 27 年 3 月）による

(3) 課題の整理

①児童生徒数の減少に対応した適正規模・適正配置

本市では、小学校の児童数は平成 21 年度の 13,000 人、中学校の生徒数は平成 25 年度の 6,200 人をピークに児童生徒数は減少している。

市内の多くの学区では、新生児が少なく児童数の減少が進んでいるが、一方で、市街化区域における開発の増加も加わって、児童生徒数が増加している学区もあり、地域的な偏在が加速化することが予想される。

このため、将来の児童生徒数の動向を見通して、小中学校の適正規模、適正配置を検討する必要がある。

②学校施設の取り扱いの検討

本市の小中学校施設は、小学校 30 校のうち 29 校が建築後 20 年以上、中学校 10 校のうち 8 校が建築後 30 年以上を経過し、施設の老朽化対策が課題となっている。今後、施設について、建替えや大規模改修等の工事を中長期的かつ継続的に実施する必要があるが、将来的な児童生徒数の試算に基づく学区の再編検討を踏まえ、老朽化に対応した施設保全のための投資を総合的に勘案した上で、学校施設の基本的な取り扱いを検討する必要がある。

③学校施設と他分野の施設との再編可能性の検討

本市では、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少による税収の減少等により、今後、ますます財政状況が厳しくなることが予想されているが、一方で市民ニーズの多様化により、限られた財源の中で安定的な市民サービスの提供が求められている。

このような状況に対応するため、本市が保有する公共施設を一元的に管理しマネジメントすることによって、財政面での負担を軽減しながら、合理的な施設の維持更新を行っていくための実施方針として、「鈴鹿市公共施設等総合管理計画」（平成 27 年 12 月）を作成している。

この計画では、実施方針の一つとして、施設の利用状況を勘案して、施設の複合化、統合、廃止等について取り組んでいくこととしている。

学校施設については、地域において重要な拠点施設であることから、学校施設間の統合のほかに、他分野の施設との連携による再編の可能性についても検討し、効果的な公共施設マネジメントを実現していくことが必要である。

2 児童生徒数の試算と課題等の整理

小中学校について、平成 48 年（20 年先）までの児童生徒数の試算を行う。

（1）試算のための条件設定

① 試算の方法・手順

1) 試算の方法

児童生徒数の試算は、出生率や移動率、生残率、開発人口などについて個別に設定可能な「コーホート要因法」を用いて 5 歳階級別の推計を行い、別途、「コーホート変化率法」を用いて 1 歳階級別に試算を行った結果を加味して、1 歳階級別の児童生徒数の試算を行う。

2) 基本条件

試算のベースとなる人口は、直近の移動率や出生率が反映できるように、住民基本台帳を利用し、試算を行う基準日は 3 月末時点とする。

出生率や移動率、生残率、開発人口などの仮定値について、将来予測値の変動も加味して、高位、中位、低位の 3 パターン（P18 参照）の推計を行う。

試算のベースとなる単位は、地区市民センター区分を基本単位として試算を行い、これを小学校区単位、中学校区単位に組み替えることで、小学校、中学校別の児童生徒数の試算を行う。

3) 推計期間

推計期間は 20 年（平成 29 年度～平成 48 年度）として、各年の推計値を示す。

② コーホート要因法に係る条件設定

今回の試算では、まず、5歳階級別の人口推計を行うためにコーホート要因法を用いた。

コーホート要因法は、人口推計手法の一つで、年齢階層それぞれの人口動態をもとに将来を予測する方法であり、人口動態に係る条件として、「①出生率」、「②生残率」、「③移動率」、「④出生性比」をそれぞれ以下のとおり設定した。

なお、上記の設定に当たっては、平成27年度に策定された「鈴鹿市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン）」において、国（国立社会保障・人口問題研究所）の推計値を基本として推計を行った際の条件設定を参考にした。

1) 出生率

出生率とは、15～49歳の5歳階級別の各年齢階層の女性が、将来5年間に子どもを出産する割合であり、今回の推計では、「鈴鹿市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン）」における、国（国立社会保障・人口問題研究所）推計による設定値を基本（低位推計）として、出生率向上施策を講じた場合の設定値（中位）も想定した。

図表. 出生率の設定

設定区分	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
基本値（低位）	1.57	1.54	1.51	1.51	1.51	1.51
出生率向上（中位）	1.54	1.60	1.70	1.80	1.95	2.10

2) 生残率

生残率とは、ある年齢X歳の人口が、5年後に(X+5)歳になるまでに生き残る確率であり、今回の推計では、「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）による年齢5歳階級別生残率を採用した。ただし、平成25年3月推計から出生⇒0-4才の生残率が設定されていないことから、出生⇒0-4才の生残率は、前回推計（平成18年3月推計）のものを採用した。

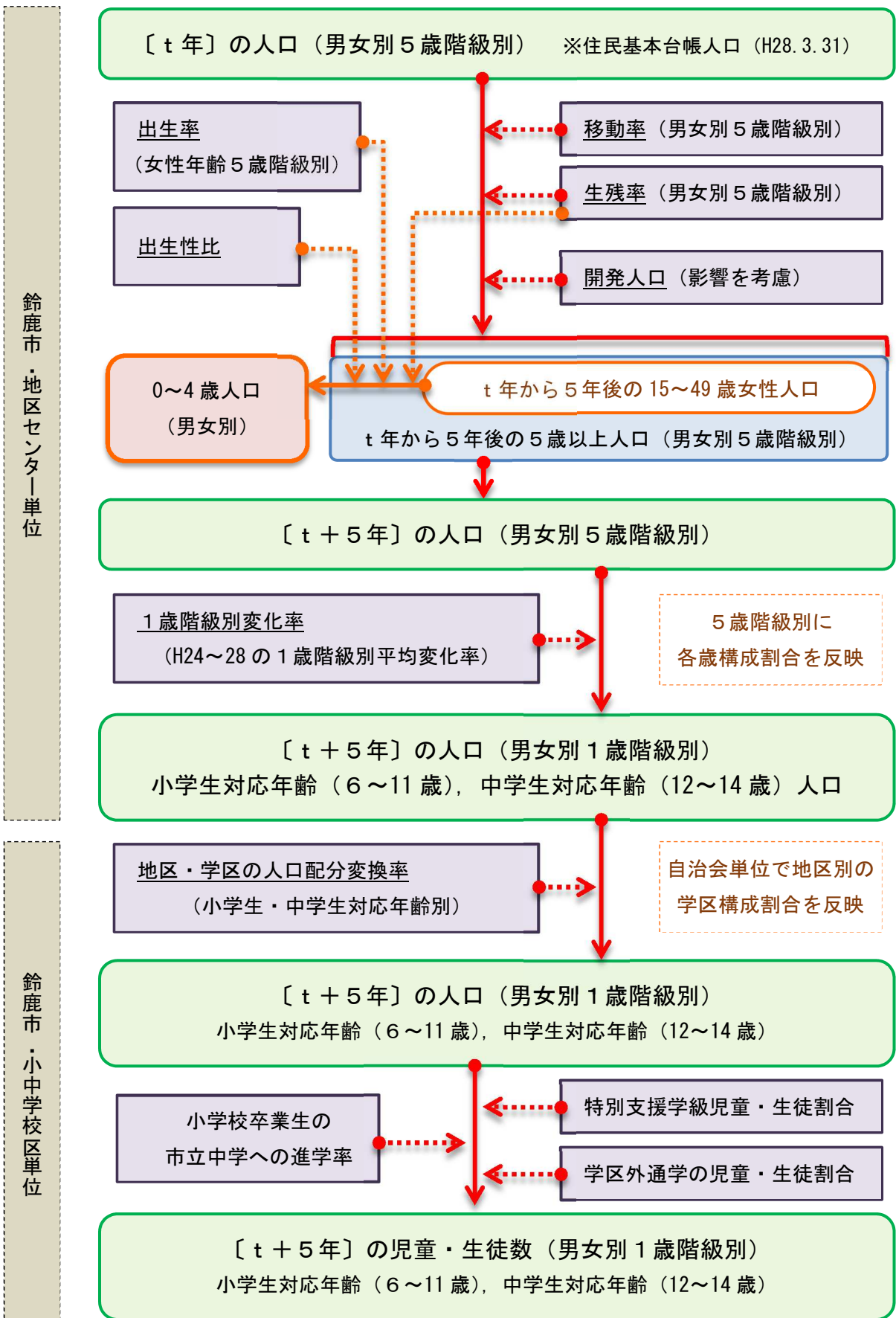
3) 移動率

移動率とは、ある地域の転入超過人口が地域人口に占める割合であり、今回の推計では、住民基本台帳の平成23年3月末現在、平成28年3月末現在の人口及び生残率から算出される各年齢階層別自然増減人口から算出した移動率を基本とした。

4) 出生性比

出生性比とは、出生人口における男女比であり、今回の推計では、「三重県衛生統計年報」による出生数の平成21年から平成25年までの実績値の平均値をもとに出生性比を算出した（出生性比：男性0.51、女性0.49）。

図表. 児童生徒数の試算フロー



③ その他の児童生徒数試算に係る条件設定

1) 推計単位（地区市民センター区分と学校区の対応関係）

本試算では、地区市民センター区分を基本単位として試算を行い、これを小学校区単位、中学校区単位に組み替えることで、小学校、中学校別の児童生徒数の試算を行う。

平成 28 年 3 月末現在の子どもの人口（小学生対応年齢 6～11 歳，中学生対応年齢 12～14 歳の人口）の実績値をもとに、地区市民センター区分と小学校区，中学校区の人口配分を下表のとおり設定する。

図表. 地区市民センター区分と小学校区の人口配分表

小学生人口のみ	国府	庄野	加佐登	牧田	石薬師	白子	稲生	飯野	河曲	一ノ宮	箕田	玉垣	若松	神戸	栄	天名	合川	井田川	久間田	樺	深伊沢	鈴峰	庄内	総計	
国府小学校	371																							371	
庄野小学校		330																							330
加佐登小学校			312																			30			342
牧田小学校				395																					395
清和小学校				178				120																	298
石薬師小学校					346														4						350
白子小学校						477																			477
桜島小学校							89					662													751
旭が丘小学校						919																			919
鼓ヶ浦小学校						99									66										165
愛宕小学校						266						70	143												479
稲生小学校						3	755																		758
飯野小学校					94			384				157													635
明生小学校	170			127																					297
河曲小学校									606																606
一ノ宮小学校										534															534
長太小学校										418															418
箕田小学校											310														310
玉垣小学校								127				642													769
若松小学校												18	344												362
神戸小学校								282				27		318											627
栄小学校															210										210
郡山小学校															284										284
天名小学校																96									96
合川小学校																	66								66
井田川小学校																		161							161
鈴西小学校					50														108			96			254
樺小学校																					85		53		138
深伊沢小学校																							153		153
庄内小学校																								89	89
総計	541	330	312	794	396	1,764	844	913	606	952	310	1,576	487	318	560	96	66	161	112	85	126	206	89	11,644	

図表. 地区市民センター区分と中学校区の人口配分表

中学生人口のみ	国府	庄野	加佐登	牧田	石薬師	白子	稲生	飯野	河曲	一ノ宮	箕田	玉垣	若松	神戸	栄	天名	合川	井田川	久間田	樺	深伊沢	鈴峰	庄内	総計	
平田野中学校	256	142		75																					473
創徳中学校				351				306				83													740
白鳥中学校		28	226		216													66	8			14			558
神戸中学校								166	315	322		13		179											995
大木中学校										225	186		82												493
千代崎中学校								64				398	187												649
白子中学校						534	393					323													1,250
鼓ヶ浦中学校						474										37									511
天栄中学校															298	46	33								377
鈴峰中学校																			48	38	45	118	53		302
総計	256	170	226	426	216	1,008	393	536	315	547	186	817	269	179	335	46	33	66	56	38	59	118	53	6,348	

2) 開発人口の特例加算

開発許可申請資料をもとに近年の開発許可件数・区画数を整理すると以下のとおりである。平成22年度以降、鈴鹿市全体では118件、1,751区画の許可申請があり、地区別では、白子、飯野、玉垣地区等において大規模な開発が行われており、将来推計に影響があると見込まれる。ただし、今回の推計では、平成28年及び23年を基礎人口として推計を行うが、平成25年度の大規模開発による住宅供給の進捗はおおむね半数程度であり、今後も一定期間は同様の傾向が続くことも見込まれること、また、大規模開発においては学区内移動が多くを占めることから、開発人口の特例加算は採用せずに推計を行うこととする。

図表. 地区市民センター区分別の開発件数と開発区画数

地区		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	合計
1 国府	件数	1	1						2
	区画数	9	4						13
2 庄野	件数								0
	区画数								0
3 加佐登	件数								0
	区画数								0
4 牧田	件数	1	2	2	1		2	1	9
	区画数	19	17	36	7		15	21	115
5 石薬寺	件数								0
	区画数								0
6 白子	件数	2	4	4	6	1	2	1	20
	区画数	14	27	24	425	8	13	9	520
7 稲生	件数	3	1	3	3	3	2	1	16
	区画数	29	10	18	43	31	20	6	157
8 飯野	件数	3		2	6		1	2	14
	区画数	26		13	233		10	16	298
9 河曲	件数	1	3	2	2	2	1	1	12
	区画数	7	31	8	24	17	6	9	102
10 一ノ宮	件数		1	3	2			1	7
	区画数		14	27	36			20	97
11 箕田	件数						1		1
	区画数						10		10
12 玉垣	件数	1	3	4	9	7	2	2	28
	区画数	10	50	32	104	81	63	21	361
13 若松	件数	2							2
	区画数	20							20
14 神戸	件数	1				1			2
	区画数	10				8			18
15 栄	件数	1		1	1	1			4
	区画数	9		6	6	12			33
16 天名	件数								0
	区画数								0
17 合川	件数								0
	区画数								0
18 井田川	件数		1						1
	区画数		7						7
19 久間田	件数								0
	区画数								0
20 椿	件数								0
	区画数								0
21 深伊沢	件数								0
	区画数								0
22 鈴峰	件数								0
	区画数								0
23 庄内	件数								0
	区画数								0
合計	件数	16	16	21	30	15	11	9	118
	区画数	153	160	164	878	157	137	102	1751

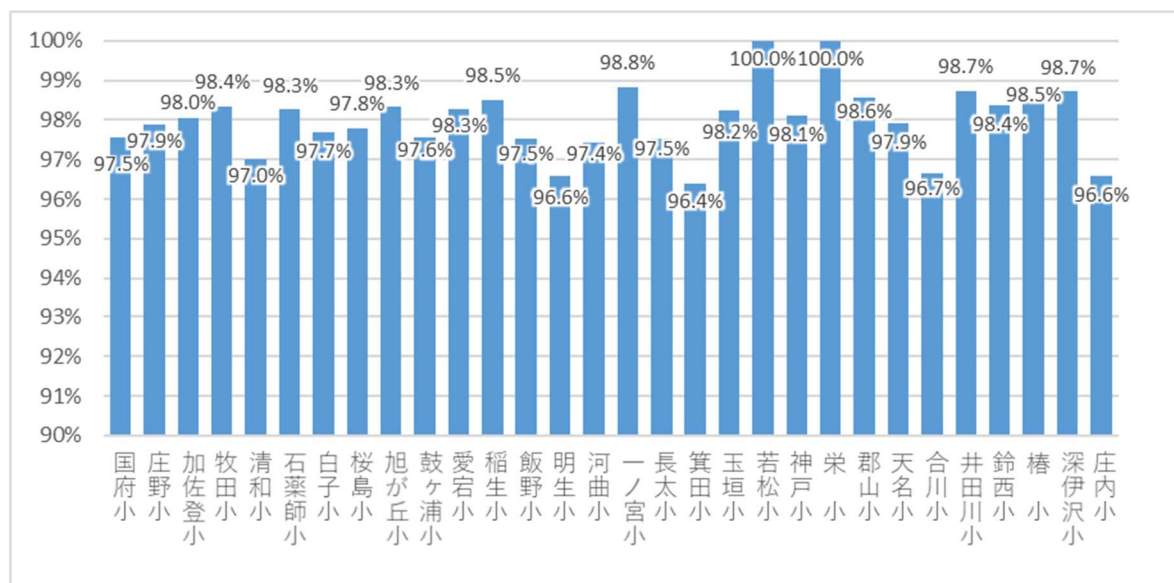
資料出典：鈴鹿市開発許可申請資料（共同住宅は戸数を区画数とした）

3) 普通学級の児童生徒数

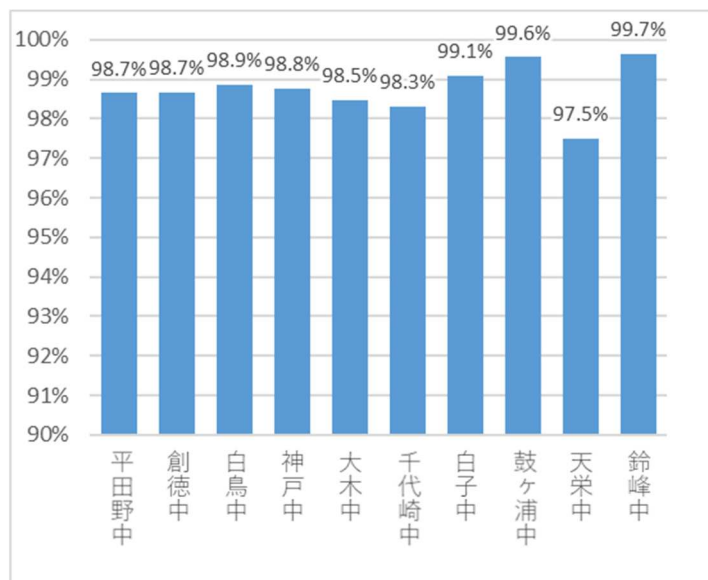
平成 28 年 5 月 1 日現在の学校別全児童生徒数のうち、普通学級の児童生徒数の占める割合は以下のとおりである。

今回の推計では、学校別に推計した小学生対応年齢（6～11 歳）、中学生対応年齢（12～14 歳）の人口に、この割合を乗じて児童生徒数の試算を行う。

図表. 普通学級の児童数割合（小学校）



図表. 普通学級の生徒数割合（中学校）



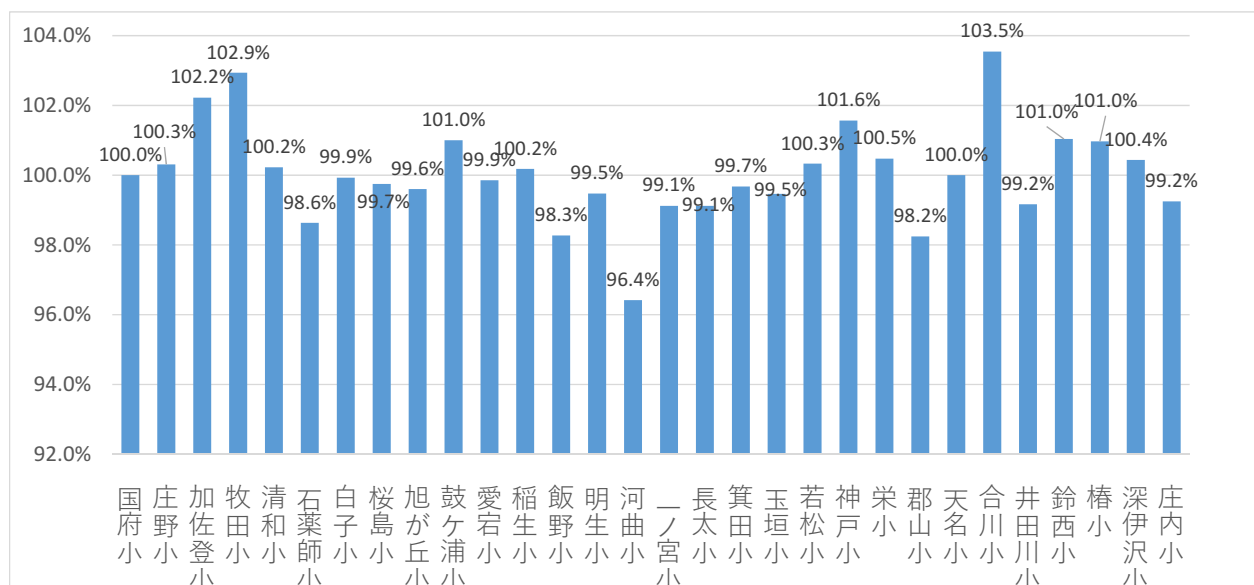
資料出典：鈴鹿市園児数・児童数・生徒数報告書（平成 28 年 4 月 10 日現在）

4) 学区外通学の児童生徒数

平成 25 年度から平成 27 年度における学校別の学区外等許可件数をもとに、実績人口に対する学区外通学による児童生徒数の増減割合を算出すると、以下のとおりとなった。

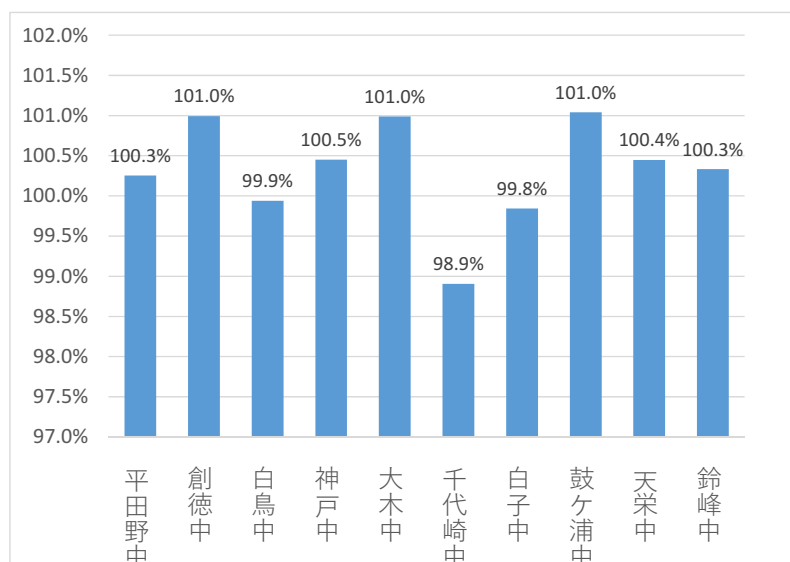
今回の推計では、学校別に推計した小学生対応年齢（6～11 歳），中学生対応年齢（12～14 歳）の人口に，この割合を乗じて児童生徒数の試算を行う。

図表. 学区外通学による児童数の増減割合（小学校）



※表中の数字は、学区外通学による児童数の増加 > 100.0%
 // 減少 < 100.0%

図表. 学区外通学による生徒数の増減割合（中学校）



※表中の数字は、学区外通学による生徒数の増加 > 100.0%
 // 減少 < 100.0%

資料出典：鈴鹿市学区外等許可件数資料（平成 25～27 年度）

5) 市立中学校への進学率

教育委員会資料をもとに小学校卒業者の進路状況をみると、平成27年3月、平成28年3月卒業者(市外転出者を除く)の鈴鹿市立中学校への平均進学率は、鈴鹿市全体では94.1%である。

今回の推計では、中学校別に推計した中学生対応年齢(12~14歳)の人口に、中学校別の鈴鹿市立中学校への進学率を乗じて生徒数の試算を行う。

図表. 小学校卒業者の進路状況内訳

	鈴鹿市立 中学校	私立 中学校等	市外 転出者	卒業者数	卒業者数 (市外転出者 を除く)	鈴鹿市立 中学への 進学率
平成27年3月 卒業者	1,962	121	28	2,111	2,083	94.2%
平成28年3月 卒業者	1,909	121	17	2,047	2,030	94.0%
					平均	94.1%

資料出典：鈴鹿市小学校進学状況調査表（平成26・27年度）

④ 推計パターンの設定

本推計では、出生率の向上施策を講じた場合を考慮するなど、以下の3つのパターンを設定して児童生徒数の試算を行う。

図表. 推計パターンの設定

設定区分	採用する基本人口、出生率や移動率設定の考え方	
基本推計 (低位)	基本人口	住民基本台帳による平成23年及び平成28年3月末時点の人口
	出生率	国(国立社会保障・人口問題研究所)推計による設定値
	移動率	基本人口及び生残率から算出する移動率
補正推計 (中位)	基本人口	基本推計と同じ
	出生率	高位推計と同じ(人口ビジョン推計によるパターン3)
	移動率	基本人口及び生残率から算出する移動率
人口ビジョン パターン3 (高位)	基本人口	国勢調査による平成17年及び平成22年10月時点の人口
	出生率	平成42年に1.8,平成52年に2.1になると仮定した設定値
	移動率	基本人口及び生残率から算出する移動率

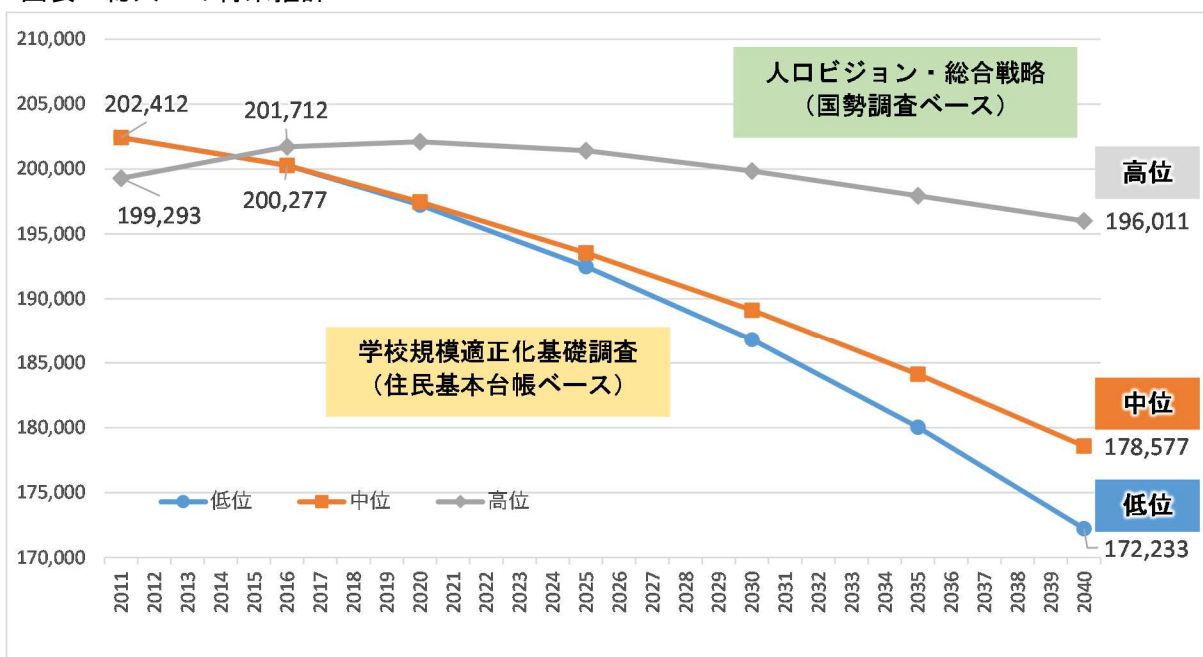
(2) 児童生徒数の試算結果

【総人口】

鈴鹿市の総人口は、平成 28 年（2016 年）の約 20.0 万人から、平成 52 年（2040 年）には、低位で約 17.2 万人、中位で約 17.9 万人、高位で約 19.6 万人になると見込まれる。

地区センター別の推計人口（低位推計）は、下表のとおりである。

図表. 総人口の将来推計



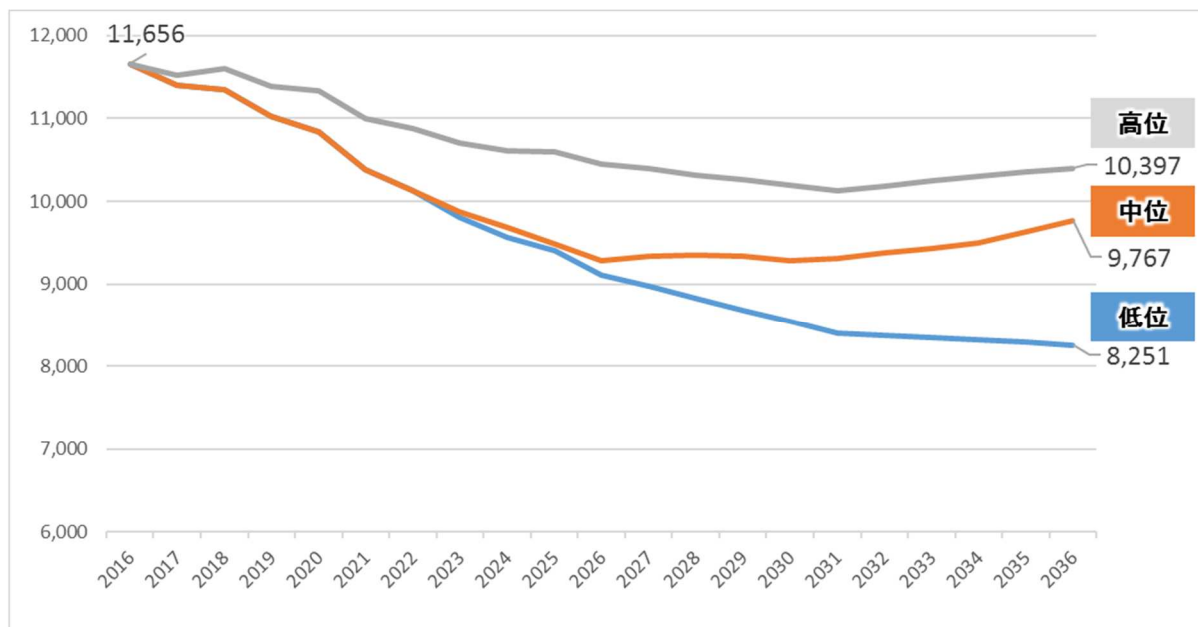
図表. 地区センター別の総人口の将来推計（低位推計）

低位推計	2011	2016	2020	2025	2030	2035	2040
国府	12,269	12,141	11,995	11,712	11,320	10,819	10,230
庄野	4,797	4,777	4,733	4,662	4,583	4,483	4,355
加佐登	5,614	5,403	5,199	4,940	4,685	4,415	4,117
牧田	15,142	14,837	14,472	13,937	13,308	12,593	11,836
石薬師	6,707	6,447	6,222	5,901	5,529	5,122	4,691
白子	31,570	31,288	30,761	29,904	28,878	27,700	26,394
稲生	11,273	11,962	12,396	12,891	13,375	13,832	14,212
飯野	14,357	14,740	14,934	15,220	15,417	15,412	15,206
河曲	10,391	10,319	10,180	9,946	9,660	9,313	8,920
一ノ宮	15,342	15,064	14,761	14,334	13,847	13,268	12,594
箕田	5,255	5,067	4,904	4,683	4,451	4,201	3,927
玉垣	26,308	26,781	26,768	26,594	26,240	25,719	25,003
若松	7,952	7,398	6,998	6,480	5,946	5,397	4,861
神戸	5,288	5,210	5,098	4,929	4,760	4,590	4,403
栄	12,397	11,721	11,215	10,524	9,771	8,960	8,081
天名	1,699	1,615	1,550	1,458	1,355	1,250	1,148
合川	1,785	1,680	1,595	1,478	1,360	1,241	1,119
井田川	2,017	2,157	2,253	2,354	2,451	2,566	2,719
久間田	2,213	2,158	2,102	2,015	1,920	1,809	1,690
椿	1,780	1,673	1,587	1,478	1,366	1,251	1,132
深伊沢	2,170	2,073	2,011	1,927	1,842	1,741	1,638
鈴峰	3,674	3,549	3,421	3,244	3,062	2,867	2,659
庄内	2,412	2,217	2,062	1,877	1,689	1,495	1,299
鈴鹿市	202,412	200,277	197,216	192,490	186,816	180,043	172,233

【児童数（小学生）】

鈴鹿市の児童数は、平成 28 年（2016 年）の 11,656 人から、平成 48 年（2036 年）には、低位推計では約 8,300 人、中位推計では約 9,800 人、高位推計では約 10,400 人になると見込まれる。

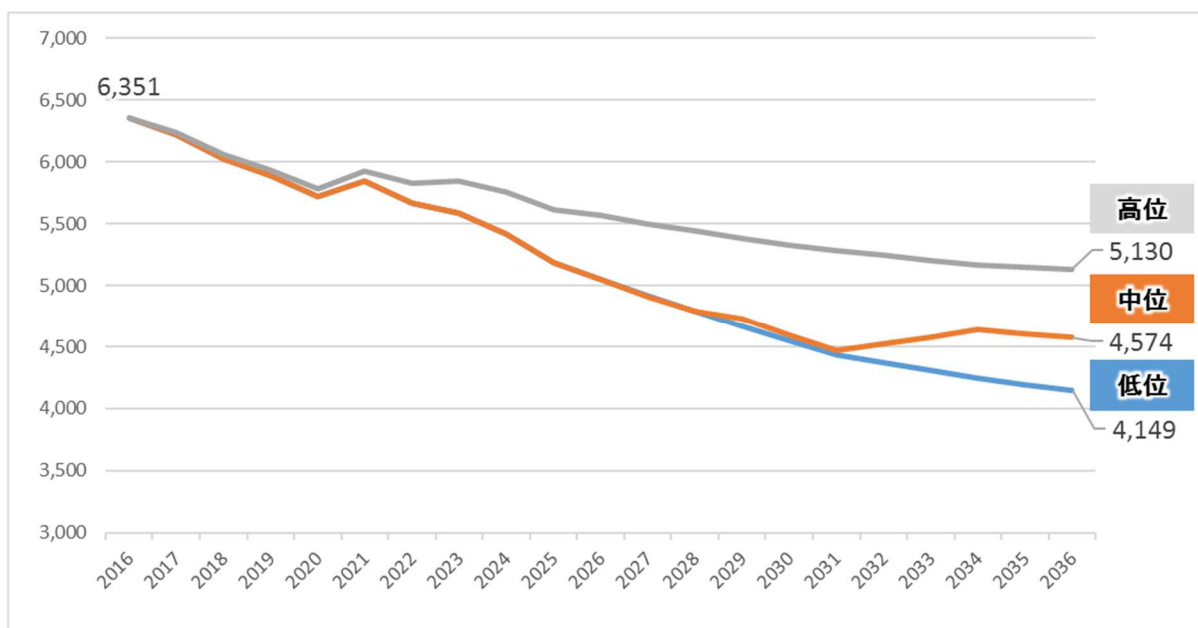
図表. 児童数（小学生に該当する 6～11 歳人口）の将来推計



【生徒数（中学生）】

鈴鹿市の生徒数は、平成 28 年（2016 年）の 6,351 人から、平成 48 年（2036 年）には、低位推計では約 4,100 人、中位推計では約 4,600 人、高位推計では約 5,100 人になると見込まれる。

図表. 生徒数（中学生に該当する 12～14 歳人口）の将来推計



(3) 児童生徒数の試算結果からみた課題整理

①児童数（小学生）の見込み

児童数（小学生に該当する6～11歳人口）は、平成28年（2016年）には11,656人となっているが、少子化の流れに伴い、今後は減少が進むものと見込まれる。

出生や社会移動が現状の見込みのまま推移すると仮定した低位推計では、一貫して減少が続き、平成48年（2036年）には約8,300人となり、現状より約3,300人（29%減）あまりも少なくなる見込みである。

政策誘導により出生や社会移動が改善されると想定した場合の中位推計、高位推計では、期間内で政策誘導の効果が出始めることで減少が抑制される、あるいは増加傾向への転換が図られることも期待されるが、平成48年（2036年）には約9,800人～10,400人となり、現状より1,300～1,900人程度（11～16%減）は少なくなる見込みである。

児童数は、今後20年間では減少が続き、政策誘導による効果を大きく見た場合（中位・高位推計）においても、現状を下回る水準にしか減少抑制が図られないことから、児童数の減少を見据えた上で、小学校の適正配置・適正規模を検討することが必要となる。

②生徒数（中学生）の見込み

生徒数（中学生に該当する12～14歳人口）は、平成28年（2016年）には6,351人となっているが、少子化の流れに伴い、全体的な傾向としては今後は減少が進むものと見込まれる。

出生や社会移動が現状の見込みのまま推移すると仮定した低位推計では、平成48年（2036年）には約4,100人となり、現状より2,300人（35%減）あまりも少なくなる見込みである。

政策誘導により出生や社会移動が改善されると想定した場合の中位推計、高位推計では、政策誘導の効果により減少が抑制されるものの、平成48年（2036年）には約4,600人～5,100人となり、現状より1,300～1,800人程度（20～28%減）は少なくなる見込みである。

生徒数は、今後20年間では減少が続き、政策誘導による効果を大きく見た場合（中位・高位推計）においても、現状より20%程度は減少が進むものと見込まれることから、生徒数の減少を見据えた上で、中学校の適正配置・適正規模を検討することが必要となる。

3 教室数の試算

各学校の児童生徒数の試算結果に基づく学級数と、現在の学級数との比較を行うことによって、将来的に必要な教室数の試算を行う。教室数は、普通教室に空きが発生した場合、特別支援、国際、少人数指導学級などに柔軟に活用している現状を踏まえ、本検討では、現在の学級数（普通学級）との比較により教室数の試算を行うものとする。

(1) 学級編制の設定

児童生徒数の推計から学級数を算定するにあたっては、以下の学級編制をもとに検討する。

図表. 学級編制

校種	学年	標準学級編制※	みえ少人数学級編制	過密解消学級編制
小	1年	35人	35人以下	30人以下
	2年	40人	35人以下	30人以下
中	1年	40人	35人以下	35人以下
小・中	他の 全学年	40人	40人以下	35人以下

※学校教育法による

図表. 複式学級とする基準

校種	複式学級編制
小	連続する学年の人数の合計が16人以下（ただし、第1学年の児童を含む学級にあっては8人）
中	連続する学年の人数の合計が8人以下

(2) 普通学級数と教室数の試算

①小学校

平成28年度の旭が丘小学校を例にとると、4月10日現在の児童数一覧表では、普通学級児童は885人在籍し30学級の編制となっている。885人の児童の場合、標準学級編制・みえ少人数学級編制により26学級、過密解消学級編制により30学級となる。

教室数の試算を行う際に、標準学級編成・みえ少人数学級編制・過密解消学級編制の考え方があがるが、最大限の学級編制を考慮し、普通学級の過密解消学級編制で検討を行う。

先程の旭が丘小学校を例にとると、当調査推計では平成38年度の普通学級児童は低位推計623人、高位推計717人。平成48年度の普通学級児童は低位推計546人、高位推計692人。このことから、同校の普通学級の過密解消学級編制では、平成38年度が低位推

計 22 学級，高位推計 24 学級。平成 48 年度が低位推計 20 学級，高位推計 24 学級となる。

上述のとおり，旭が丘小学校では平成 28 年度の普通学級は 30 学級（過密解消学級編制）であるが，平成 38 年度には 22～24 学級となり，比較すると 6～8 学級少なくなり，教室の部屋数を同じ条件とした場合は，空き教室が発生することを意味する。

P24～P25 の図表は，各校の平成 48 年度までの普通学級数の試算，及び現在の学級数との比較により正の数は空き教室数を示し，負の数は普通教室の他用途での使用の見直し等が必要とされる教室数を示す。

児童数が高位推計の場合，国府小，明生小が平成 48 年まで負の数が継続すると推計され，そのほかの学校では短期的に負の数が見られる学校があるが，将来的には，多くの学校で空き教室が発生すると推計される。

②中学校

平成 28 年度の白子中学校を例にとると，4 月 10 日現在の生徒数一覧表では，普通学級生徒は 1,086 人在籍し 31 学級の編制となっている。1,086 人の生徒の場合，標準学級編制により 29 学級，みえ少人数学級編制により 30 学級，過密解消学級編制により 32 学級となる。

教室数の試算を行う際に，標準学級編成・みえ少人数学級編制・過密解消学級編制の考え方があがるが，最大限の学級編制を考慮し，普通学級の過密解消学級編制で検討を行う。

先程の白子中学校を例にとると，当調査推計では平成 38 年度の普通学級生徒は低位推計 921 人，高位推計 1,017 人。平成 48 年度の普通学級生徒は低位推計 715 人，高位推計 884 人。このことから，同校の普通学級の過密解消学級編制では，平成 38 年度が低位推計 27 学級，高位推計 30 学級。平成 48 年度が低位推計 21 学級，高位推計 27 学級となる。

上述のとおり，白子中学校では平成 28 年度の普通学級は 31 学級であるが，平成 38 年度には 27～30 学級となり，比較すると 1～4 学級少なくなり，教室の部屋数を同じ条件とした場合は，空き教室が発生することを意味する。

P24～P25 の図表は，各校の平成 48 年度までの普通学級数の試算，及び現在の学級数との比較により正の数は空き教室数を示し，負の数は普通教室の他用途での使用の見直し等が必要とされる教室数を示す。

生徒数が高位推計の場合，平田野中で平成 38 年以降平成 48 年まで負の数が継続すると推計されるが，そのほかの学校では，短期的に負の数が見られる学校があるが，多くの学校で空き教室が発生すると推計される。

※P24, 25 の図表中，

小規模特認校制度：特色ある教育活動を行う小規模な学校において，市内全域を通学区域として認める制度

（通学区域の）弾力化制度：大規模校対策として，特定の地域に在住する児童生徒について，一定の条件のもと，指定校以外の隣接する学校への就学を認める制度

図表. 小中学校普通学級数の試算

表中の数字は、過密解消学級編制によるもので、左は高位推計、右は低位推計。

【小学校学級数】

		H28学級数 (実学級数)	H28学級数 (過密解消による学級数) 【参考】※	H33	H38	H43	H48
1	国府小	14	-	16 ~ 13	16 ~ 14	18 ~ 14	18 ~ 14
2	庄野小	12	-	12 ~ 12	12 ~ 11	12 ~ 10	12 ~ 12
3	加佐登小	13	-	11 ~ 11	12 ~ 11	12 ~ 12	12 ~ 12
4	牧田小	15	16	14 ~ 13	13 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
5	清和小	12	-	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
6	石薬師小	13	-	12 ~ 11	12 ~ 11	12 ~ 11	12 ~ 8
7	白子小	16	17	17 ~ 17	18 ~ 14	14 ~ 12	16 ~ 12
8	桜島小	25	-	29 ~ 28	25 ~ 22	24 ~ 20	26 ~ 20
9	旭が丘小	30	-	26 ~ 23	24 ~ 22	24 ~ 20	24 ~ 20
10	鼓ヶ浦小	7	-	7 ~ 6	8 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
11	愛宕小	17	-	14 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
12	稲生小	25	-	27 ~ 25	24 ~ 21	24 ~ 20	26 ~ 20
13	飯野小	22	-	20 ~ 20	18 ~ 18	19 ~ 15	20 ~ 17
14	明生小	11	-	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
15	河曲小	18	17	19 ~ 17	18 ~ 17	18 ~ 14	18 ~ 14
16	一ノ宮小	18	-	16 ~ 16	17 ~ 14	16 ~ 14	18 ~ 13
17	長太小	15	-	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
18	箕田小	12	-	10 ~ 10	9 ~ 6	8 ~ 6	12 ~ 6
19	玉垣小	25	-	25 ~ 23	22 ~ 19	20 ~ 18	20 ~ 18
20	若松小	12	-	12 ~ 12	11 ~ 10	12 ~ 12	12 ~ 8
21	神戸小	21	22	21 ~ 20	18 ~ 18	18 ~ 16	20 ~ 18
22	栄小	8	-	7 ~ 7	7 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
23	郡山小	11	-	10 ~ 7	10 ~ 10	12 ~ 6	6 ~ 6
24	天名小	6	-	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 5
25	合川小	6	-	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
26	井田川小	6	-	9 ~ 6	7 ~ 6	6 ~ 6	8 ~ 6
27	鈴西小	11	-	10 ~ 10	10 ~ 8	9 ~ 6	9 ~ 6
28	椿小	6	-	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
29	深伊沢小	7	-	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
30	庄内小	6	-	6 ~ 5	6 ~ 5	4 ~ 4	4 ~ 3
	計	420	422	410 ~ 384	389 ~ 353	378 ~ 332	389 ~ 328

【中学校学級数】

		H28学級数 (実学級数)	H28学級数 (過密解消による学級数) 【参考】※	H33	H38	H43	H48
1	平田野中	13	15	13 ~ 13	15 ~ 12	14 ~ 12	15 ~ 12
2	創徳中	19	21	20 ~ 18	19 ~ 18	18 ~ 15	18 ~ 15
3	白鳥中	16	-	16 ~ 15	14 ~ 11	13 ~ 12	12 ~ 12
4	神戸中	27	-	26 ~ 25	24 ~ 22	23 ~ 19	24 ~ 18
5	大木中	15	-	12 ~ 12	11 ~ 9	10 ~ 9	9 ~ 9
6	千代崎中	18	-	18 ~ 18	18 ~ 15	15 ~ 12	15 ~ 12
7	白子中	31	32	31 ~ 31	30 ~ 27	27 ~ 23	27 ~ 21
8	鼓ヶ浦中	15	-	12 ~ 12	12 ~ 10	12 ~ 9	12 ~ 9
9	天栄中	11	-	13 ~ 13	10 ~ 9	12 ~ 10	10 ~ 9
10	鈴峰中	10	-	9 ~ 9	8 ~ 7	9 ~ 6	6 ~ 6
	計	175	180	170 ~ 166	161 ~ 140	153 ~ 127	148 ~ 123

【小規模特認・弾力化制度なしの場合】

●小規模特認校制度なしの場合

25	合川小学校	6	-	5 ~ 5	6 ~ 5	6 ~ 6	6 ~ 4
9	天栄中学校	11	-	12 ~ 12	10 ~ 9	12 ~ 10	10 ~ 9

●弾力化制度なしの場合

7	白子中学校	31	33	34 ~ 34	33 ~ 31	30 ~ 26	30 ~ 24
9	天栄中学校	11	-	9 ~ 8	6 ~ 6	9 ~ 8	7 ~ 6

●小規模特認校制度・弾力化制度なしの場合

9	天栄中学校	11	-	8 ~ 8	6 ~ 6	9 ~ 7	6 ~ 6
---	-------	----	---	-------	-------	-------	-------

※ 過密解消学級編制によるH28学級数が実学級数と同じ場合には、「-」で示している。

表中の数字は、現行H28年の学級数から各年の学級数を引いた値。左は高位推計、右は低位推計。

図表. 小中学校普通学級数の現行学級数との比較

【小学校 H28学級数(実学級数) - 各年の学級数】

	H28学級数 (実学級数)	H33	H38	H43	H48
1 国府小	14	-2 ~ 1	-2 ~ 0	-4 ~ 0	-4 ~ 0
2 庄野小	12	0 ~ 0	0 ~ 1	0 ~ 2	0 ~ 0
3 加佐登小	13	2 ~ 2	1 ~ 2	1 ~ 1	1 ~ 1
4 牧田小	15	1 ~ 2	2 ~ 3	3 ~ 3	3 ~ 3
5 清和小	12	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0
6 石薬師小	13	1 ~ 2	1 ~ 2	1 ~ 2	1 ~ 5
7 白子小	16	-1 ~ -1	-2 ~ 2	2 ~ 4	0 ~ 4
8 桜島小	25	-4 ~ -3	0 ~ 3	1 ~ 5	-1 ~ 5
9 旭が丘小	30	4 ~ 7	6 ~ 8	6 ~ 10	6 ~ 10
10 鼓ヶ浦小	7	0 ~ 1	-1 ~ 1	1 ~ 1	1 ~ 1
11 愛宕小	17	3 ~ 5	5 ~ 5	5 ~ 5	5 ~ 5
12 稲生小	25	-2 ~ 0	1 ~ 4	1 ~ 5	-1 ~ 5
13 飯野小	22	2 ~ 2	4 ~ 4	3 ~ 7	2 ~ 5
14 明生小	11	-1 ~ -1	-1 ~ -1	-1 ~ -1	-1 ~ -1
15 河曲小	18	-1 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 4	0 ~ 4
16 一ノ宮小	18	2 ~ 2	1 ~ 4	2 ~ 4	0 ~ 5
17 長太小	15	3 ~ 3	3 ~ 3	3 ~ 3	3 ~ 3
18 箕田小	12	2 ~ 2	3 ~ 6	4 ~ 6	0 ~ 6
19 玉垣小	25	0 ~ 2	3 ~ 6	5 ~ 7	5 ~ 7
20 若松小	12	0 ~ 0	1 ~ 2	0 ~ 0	0 ~ 4
21 神戸小	21	0 ~ 1	3 ~ 3	3 ~ 5	1 ~ 3
22 栄小	8	1 ~ 1	1 ~ 2	2 ~ 2	2 ~ 2
23 郡山小	11	1 ~ 4	1 ~ 1	-1 ~ 5	5 ~ 5
24 天名小	6	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 1
25 合川小	6	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0
26 井田川小	6	-3 ~ 0	-1 ~ 0	0 ~ 0	-2 ~ 0
27 鈴西小	11	1 ~ 1	1 ~ 3	2 ~ 5	2 ~ 5
28 椿小	6	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 0
29 深伊沢小	7	1 ~ 1	1 ~ 1	1 ~ 1	1 ~ 1
30 庄内小	6	0 ~ 1	0 ~ 1	2 ~ 2	2 ~ 3
計	420	10 ~ 36	31 ~ 67	42 ~ 88	31 ~ 92

【中学校 H28学級数(実学級数) - 各年の学級数】

	H28学級数 (実学級数)	H33	H38	H43	H48
1 平田野中	13	0 ~ 0	-2 ~ 1	-1 ~ 1	-2 ~ 1
2 創徳中	19	-1 ~ 1	0 ~ 1	1 ~ 4	1 ~ 4
3 白鳥中	16	0 ~ 1	2 ~ 5	3 ~ 4	4 ~ 4
4 神戸中	27	1 ~ 2	3 ~ 5	4 ~ 8	3 ~ 9
5 大木中	15	3 ~ 3	4 ~ 6	5 ~ 6	6 ~ 6
6 千代崎中	18	0 ~ 0	0 ~ 3	3 ~ 6	3 ~ 6
7 白子中	31	0 ~ 0	1 ~ 4	4 ~ 8	4 ~ 10
8 鼓ヶ浦中	15	3 ~ 3	3 ~ 5	3 ~ 6	3 ~ 6
9 天栄中	11	-2 ~ -2	1 ~ 2	-1 ~ 1	1 ~ 2
10 鈴峰中	10	1 ~ 1	2 ~ 3	1 ~ 4	4 ~ 4
計	175	5 ~ 9	14 ~ 35	22 ~ 48	27 ~ 52

【小規模特認・弾力化なしの場合】

●小規模特認校制度なしの場合

25 合川小学校	6	1 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 0	0 ~ 2
9 天栄中学校	11	-1 ~ -1	1 ~ 2	-1 ~ 1	1 ~ 2

●弾力化制度なしの場合

7 白子中学校	31	-3 ~ -3	-2 ~ 0	1 ~ 5	1 ~ 7
9 天栄中学校	11	2 ~ 3	5 ~ 5	2 ~ 3	4 ~ 5

●小規模特認校制度・弾力化制度なしの場合

9 天栄中学校	11	3 ~ 3	5 ~ 5	2 ~ 4	5 ~ 5
---------	----	-------	-------	-------	-------

4 将来的に適正規模の学校

子どもたちに、よりよい学習環境やよりよい人間関係づくりの機会を提供する観点から総合的に判断して、鈴鹿市としての適正な学校規模を設定し、将来的に鈴鹿市としての適正な学校規模として考えられる学校を分類するとともに、適正規模でない学校について問題・課題を整理する。

(1) 国・県における適正規模の考え方

学校教育法施行規則及び文部科学省による「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」に記載されているように、望ましい学校規模は小中学校ともに、「12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」と規定している。

また、「法令上標準が定められている学級数に加え、1学級当たりの児童生徒数や学校全体の児童生徒数、それらの将来推計などの観点もあわせて総合的な検討を行うことが求められる。」としている。

(2) 本市における学校規模設定の考え方

鈴鹿市では、市街地から中山間地までの広域に小中学校が配置されており、教育的な観点に加えて、地域コミュニティの核としての学校の役割が重要であり、小中学校が多様な役割を担うことにも留意する必要がある。

「公立小学校・中学校に適正規模・適正配置等に関する手引き」（平成27年1月27日、文部科学省）によれば、次のように規定されている。

○教育的な観点

単に教科等の知識や技能等を習得するだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力しあい、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが重要になる。そのような教育を十分に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましい。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となる。

○地域コミュニティの核としての性格への配慮

小中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有しており、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っている。また、学校教育は地域の未来の担い手である子供たちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っている。

このような観点から、本市の適正な学校規模（普通学級数）を次のように設定する。

【小学校の学級数】

12 学級から 24 学級（1 学年 2～4 学級）が望ましいが、6～11 学級も当面の間は認める。

ただし、全校児童数が 100 人未満の 6 学級の学校は除く。

【中学校の学級数】

9 学級から 24 学級まで（1 学年 3～8 学級）とする。

①上限の考え方

学校教育法施行規則及び国の手引きから 12 学級以上 18 学級以下を標準としているが、義務教育諸学校等の施設の国庫負担等に関する法律施行令では、5 学級以下の学校と 12 学級から 18 学級までの学校とを統合する場合においては、24 学級までを適正な学級規模として国庫補助を行うことになっている。

このため、適正な規模を 24 学級までとする。すなわち、19 学級から 24 学級については、標準に対して許容範囲と考える。

②下限の考え方

小学校では、11 学級以下の場合には単学級となる学年が存在し、クラス替えができない学年ができる。単学級では、新たな出会いや多様な考え方に接する機会が少なくなり、人間関係が固定化され、お互いに切磋琢磨しにくい状況が発生する。このため、小学校では 12 学級以上が望ましいと考える。しかしながら、学校の地域におけるコミュニティ形成の役割を考慮し、小学校では 6～11 学級も当面の間、認めるものとする。

中学校においては、小学校よりもさらに多様な人間関係の構築が望まれ、教科担任制が適正に機能するとともに、部活動等の確保の面なども考慮する必要がある。国の指針では 12 学級以上が望ましいと示されているが、鈴鹿市では、全学年が 3 学級で計 9 学級になった場合でもクラス替えが可能であり、教科指導等にも大きな支障がないと考えられる。このため、中学校では 9 学級以上が望ましいと考える。

(3) 適正な学校規模と考えられる学校

①学校の分類についての基本的な考え方

適正な学校規模と考えられる学校は、学校規模、学級編制の観点から、次の条件により分類する。

1) 検討時期

計画期間を平成 29 年からの 20 年間（平成 48 年まで）とし、中間年として、5 年後（平成 33 年度）、10 年後（平成 38 年度）、15 年後（平成 43 年度）及び 20 年後（平成 48 年度）の学級数、全校児童数をもとに検討する。

2) 学校規模・学級編制

学校規模設定の考え方を踏まえ、学級数及び全校児童数によって分類する。

○小学校の場合

推計年次すべてにおいて 12～24 学級となる場合に「適正規模校」、6～11 学級となる場合に「準適正規模校」とする。

推計年次のいずれかにおいて、25 学級以上となる場合に「大規模校」とする。特に、31 学級以上（現状の特別支援学級を含む）となる場合に、「過大規模校」とする。

推計年次のいずれかにおいて、全校児童数が 100 人未満の 6 学級の学校は「小規模校」とする。特に、5 学級以下となる場合に「過小規模校」とする。

○中学校の場合

推計年次すべてにおいて、9～24 学級となる場合に「適正規模校」とする。

推計年次のいずれかにおいて、25 学級以上となる場合に「大規模校」とする。特に、31 学級以上（現状の特別支援学級を含む）となる場合に、「過大規模校」とする。

推計年次のいずれかにおいて、8 学級以下となる場合を「小規模校」とする。特に、5 学級以下となる場合に「過小規模校」とする。

なお、検討すべき課題を確実に把握できるようにすること、及び、できる限り早い段階で課題を把握し対応策を検討する時間が十分に確保できるよう、過小規模校や小規模校については低位推計の児童生徒数・学級数を、過大規模校や大規模校については高位推計の児童生徒数・学級数を用いた。

②学校の特定

小中学校の規模の適正化について検討した結果は、以下ようになる。

図表. 小学校の分類

	過小規模校	小規模校	準適正規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
基準	5学級以下	全校児童数100人未満の6学級	6～11学級	12～24学級	25～30学級	31学級以上 (現状の特別支援学級を含む)
推計の全て		合川小(小規模特認あり)	鼓ヶ浦小 栄小 井田川小 鈴西小	国府小 牧田小 清和小 白子小 愛宕小 飯野小 明生小 河曲小 一ノ宮小 長太小 神戸小		
推計の一部	天名小 庄内小 合川小(小規模特認なし)	椿小 深伊沢小	庄野小 加佐登小 石薬師小 箕田小 若松小 郡山小		稲生小 玉垣小	桜島小 旭が丘小 ※1
学校数	2校(3)	3校	10校	11校	2校	2校

※1 普通学級の標準学級数推計では、桜島小は最大(高位推計)で25学級、旭が丘小は26学級となる。

図表. 中学校の分類

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
基準	5学級以下	6～8学級	9～24学級	25～30学級	31学級以上 (現状の特別支援学級を含む)
推計の全て			平田野中 創徳中 白鳥中 大木中 千代崎中 鼓ヶ浦中 天栄中(小規模・弾力化あり)		
推計の一部	天栄中(小規模・弾力化なし) ※2	鈴峰中		神戸中	白子中 ※1
学校数	0校(1)	1校	7校	1校	1校

※1 普通学級の標準学級数推計では、白子中は最大(高位推計)で29学級となる。

※2 普通学級の標準学級数推計では、天栄中は最小(低位推計)で5学級となる。

図表. 小学校学級数と学校分類

表中の数字は、過密解消学級編制によるもので、左は高位推計、右は低位推計。

【小学校学級数】

		H28特別支援学級数	H28普通学級数	H33	H38	H43	H48
1	国府小	3	14	16 ~ 13	16 ~ 14	18 ~ 14	18 ~ 14
2	庄野小	2	12	12 ~ 12	12 ~ 11	12 ~ 10	12 ~ 12
3	加佐登小	2	13	11 ~ 11	12 ~ 11	12 ~ 12	12 ~ 12
4	牧田小	2	15	14 ~ 13	13 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
5	清和小	3	12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
6	石薬師小	2	13	12 ~ 11	12 ~ 11	12 ~ 11	12 ~ 8
7	白子小	2	16	17 ~ 17	18 ~ 14	14 ~ 12	16 ~ 12
8	桜島小	4	25	29 ~ 28	25 ~ 22	24 ~ 20	26 ~ 20
9	旭が丘小	4	30	26 ~ 23	24 ~ 22	24 ~ 20	24 ~ 20
10	鼓ヶ浦小	1	7	7 ~ 6	8 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
11	愛宕小	2	17	14 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
12	稲生小	2	25	27 ~ 25	24 ~ 21	24 ~ 20	26 ~ 20
13	飯野小	3	22	20 ~ 20	18 ~ 18	19 ~ 15	20 ~ 17
14	明生小	2	11	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
15	河曲小	3	18	19 ~ 17	18 ~ 17	18 ~ 14	18 ~ 14
16	一ノ宮小	2	18	16 ~ 16	17 ~ 14	16 ~ 14	18 ~ 13
17	長太小	2	15	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12	12 ~ 12
18	箕田小	2	12	10 ~ 10	9 ~ 6	8 ~ 6	12 ~ 6
19	玉垣小	2	25	25 ~ 23	22 ~ 19	20 ~ 18	20 ~ 18
20	若松小	0	12	12 ~ 12	11 ~ 10	12 ~ 12	12 ~ 8
21	神戸小	3	21	21 ~ 20	18 ~ 18	18 ~ 16	20 ~ 18
22	栄小	0	8	7 ~ 7	7 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
23	郡山小	2	11	10 ~ 7	10 ~ 10	12 ~ 6	6 ~ 6
24	天名小	1	6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 5
25	合川小	1	6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
26	井田川小	1	6	9 ~ 6	7 ~ 6	6 ~ 6	8 ~ 6
27	鈴西小	1	11	10 ~ 10	10 ~ 8	9 ~ 6	9 ~ 6
28	椿小	1	6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
29	深伊沢小	1	7	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6	6 ~ 6
30	庄内小	1	6	6 ~ 5	6 ~ 5	4 ~ 4	4 ~ 3
	計		420	410 ~ 384	389 ~ 353	378 ~ 332	389 ~ 328

●小規模特認校制度なしの場合

25	合川小学校	1	6	5 ~ 5	6 ~ 5	6 ~ 6	6 ~ 4
----	-------	---	---	-------	-------	-------	-------

過大規模校(31学級以上(現状の特別支援学級を含む))

大規模校(25~30学級)

適正規模校(12~24学級)

準適正規模校(6~11学級)

小規模校(全校児童数100人未満の6学級)

過小規模校(5学級以下)

※小規模特認校制度：特色ある教育活動を行う小規模な学校において、市内全域を通学区域として認める制度

図表. 中学校学級数と学校分類

表中の数字は、過密解消学級編制によるもので、左は高位推計、右は低位推計。

【中学校学級数】

		H28特別支援学級数	H28普通学級数	H33	H38	H43	H48
1	平田野中	2	13	13 ~ 13	15 ~ 12	14 ~ 12	15 ~ 12
2	創徳中	2	19	20 ~ 18	19 ~ 18	18 ~ 15	18 ~ 15
3	白鳥中	2	16	16 ~ 15	14 ~ 11	13 ~ 12	12 ~ 12
4	神戸中	3	27	26 ~ 25	24 ~ 22	23 ~ 19	24 ~ 18
5	大木中	2	15	12 ~ 12	11 ~ 9	10 ~ 9	9 ~ 9
6	千代崎中	3	18	18 ~ 18	18 ~ 15	15 ~ 12	15 ~ 12
7	白子中	2	31	31 ~ 31	30 ~ 27	27 ~ 23	27 ~ 21
8	鼓ヶ浦中	1	15	12 ~ 12	12 ~ 10	12 ~ 9	12 ~ 9
9	天栄中	2	11	13 ~ 13	10 ~ 9	12 ~ 10	10 ~ 9
10	鈴峰中	1	10	9 ~ 9	8 ~ 7	9 ~ 6	6 ~ 6
	計		175	170 ~ 166	161 ~ 140	153 ~ 127	148 ~ 123

●小規模特認校制度なしの場合


9	天栄中学校	2	11	12 ~ 12	10 ~ 9	12 ~ 10	10 ~ 9
---	-------	---	----	---------	--------	---------	--------


●弾力化制度なしの場合


7	白子中学校	2	31	34 ~ 34	33 ~ 31	30 ~ 26	30 ~ 24
9	天栄中学校	2	11	9 ~ 8	6 ~ 6	9 ~ 8	7 ~ 6


●小規模特認校制度・弾力化制度なしの場合


9	天栄中学校	2	11	8 ~ 8	6 ~ 6	9 ~ 7	6 ~ 6
---	-------	---	----	-------	-------	-------	-------

 過大規模校(31学級以上(現状の特別支援学級を含む))

 大規模校(25~30学級)

 適正規模校(9~24学級)

 小規模校(6~8学級)

 過小規模校(5学級以下)

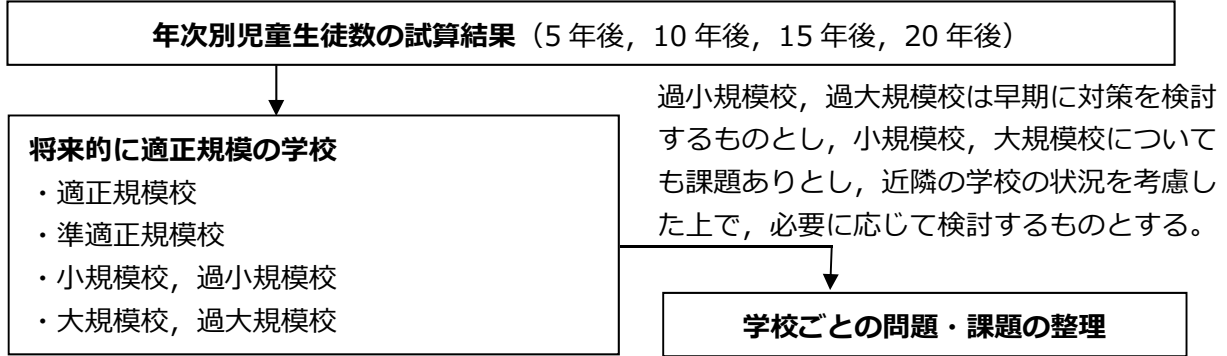
※小規模特認校制度：特色ある教育活動を行う小規模な学校において、市内全域を通学区域として認める制度

(通学区域の)弾力化制度：大規模校対策として、特定の地域に在住する児童生徒について、一定の条件のもと、指定校以外の隣接する学校への就学を認める制度

(4) 学校ごとの問題・課題の整理

次の手順で学校ごとの問題・課題を整理する。

図表. 検討の流れ



①小学校

過小規模校である庄内小, 天名小については, 小規模校のメリットを最大限生かす方策や, 将来的には統廃合などを検討する必要がある。合川小は, 現状の小規模特認を継続すれば小規模校となるが, 小規模特認がない場合には過小規模校となるため, 小規模特認の継続性についても検討する必要がある。

その他の小学校は, 通学区域の見直しや適正な学校運営などによって, 対応できると考えられる。

図表. 小学校の問題・課題

評価	学校	問題・課題
過小規模校	庄内小	現在, 全校児童数が 85 名と少ない。今後, 児童数の減少が予想され, 将来的には 5 学級以下になると推計される。 小規模校のメリットを最大限生かす方策や, 将来的には統廃合などを検討する必要がある。
	天名小	現在, 全校児童数が 94 名と少ない。今後, 児童数の減少が予想され, 低位推計では, 将来 5 学級以下になる可能性がある。 人口減少に歯止めをかける方策などによって地域の児童数を確保することや, 場合によっては, 統廃合等を検討する必要がある。
	合川小 (小規模特認なし)	現在, 全校児童数が 87 名と少ない。小規模特認校制度を継続しなかった場合には過小規模校になると推計される。このため, 小規模特認制度の継続や統廃合等について検討する必要がある。
小規模校	合川小 (小規模特認あり)	現在, 全校児童数が 87 名と少ない。小規模特認校制度を継続した場合でも小規模校になる可能性がある。このため, 人口減少に歯止めをかける方策などによって, 地域の児童数を確保することが必要である。
	椿小	低位推計の場合, H43 年以降で児童数 100 人未満の小規模校になる可能性がある。このため, 人口減少に歯止めをかける方策などによって, 地域の児童数を確保することが必要である。

評価	学校	問題・課題
	深伊沢小	<p>低位推計の場合、H43年以降で児童数100人未満の小規模校になる可能性がある。</p> <p>人口減少に歯止めをかける方策などによって、地域の児童数を確保することが必要である。</p>
大規模校	稲生小	<p>現在、25学級である。今後は一旦増加するが、H38年には21～24学級まで減少すると推計される。</p> <p>人口動向を把握しながら、適正な学校運営等の柔軟な方策で対応できると考えられる。</p>
	玉垣小	<p>現在、25学級である。今後は減少するが、人口の高位推計の場合に、当面、最大25学級と推計される。</p> <p>人口動向を把握しながら、適正な学校運営等の柔軟な方策で対応できると考えられる。</p>
過大規模校	旭が丘小	<p>現在、30学級であり、現状の特別支援学級数を含めると34学級となり、現状では過大規模校である。今後は減少し、H38年には22～24学級程度の適正規模になると推計される。</p> <p>人口動向を把握しながら、通学区域の見直しや適正な学校運営の実施等の柔軟な方策を実施する必要がある。</p>
	桜島小	<p>現在、25学級であり、今後は一旦増加し、現状の特別支援学級数を含めると過大規模校となる可能性があるが、H38年には22～25学級と推計され、適正規模をやや上回る程度となる。</p> <p>人口動向を把握しながら、通学区域の見直しや適正な学校運営の実施等の柔軟な方策を実施する必要がある。</p>

②中学校

過大規模校の白子中，大規模校の神戸中は，人口減少により適正規模校に向かうため，人口動向をみながら学校運営の柔軟な対応などを検討する必要がある。ただし，白子中については，弾力化制度がない場合には，過大規模校の状態が継続するため，制度の継続等についても検討が必要である。

小規模校の鈴峰中は，6 学級程度まで減少すると推計されるが，1 学年複数学級にとどまるため，学校運営の柔軟な対応などを検討する必要がある。

天栄中については，人口動向を把握しながら，小規模・弾力化制度の適用などを検討する必要がある。

図表. 中学校の問題・課題

評価	学校	問題・課題
過小規模校	天栄中 (小規模・弾力化なし)	現在は 11 学級であるが，今後，普通学級の標準学級数推計で最小(低位推計)の場合，5 学級程度まで減少すると推計される。 小規模・弾力化制度ありの場合には適正規模校になることから，人口動向を把握しながら，この制度の適用についても検討する必要がある。
小規模校	鈴峰中	現在は 10 学級であるが，今後，人口減少によって 6 学級程度まで減少すると推計される。各学年で 2 学級以上となるため，全学年でクラス替えができ，同学年に複数の教員を配置することができる規模である。 人口動向を把握しながら，小規模校のメリットを最大限生かす方策などを検討する必要がある。
大規模校	神戸中	現在 27 学級である。今後は減少すると推計され，H38 年には 22～24 学級まで減少する。 人口動向を把握しながら，適正な学校運営等の柔軟な方策について検討する必要がある。
過大規模校	白子中	現在 31 学級である。今後は減少し，人口推計ケースによって異なるが，H48 年には 21～27 学級程度まで減少すると推計される。 ただし，弾力化制度がない場合には，過大規模校のまま推移すると推計されるため，弾力化制度の継続についても検討する必要がある。また，人口動向を把握しながら，適正な学校運営等の柔軟な方策について検討する必要がある。

5 学校規模適正化基本方針等策定のための基礎資料

何らかの対策が必要と考えられる過小規模校，過大規模校を主な対象とし，将来の普通学級児童生徒数・普通学級数の推計をもとに，中学校区内の小規模校，大規模校も含めた検討事項を設定する。

(1) 検討対象学区，学校

第4章で抽出した課題校のうち，次の中学校区を対象に検討する。

図表. 検討対象学区・課題校

学校区	課題校
鈴峰中学校区	庄内小学校（過小規模校） 椿小学校（小規模校） 深伊沢小学校（小規模校）
天栄中学校区	天栄中学校（標準学級編成の場合，小規模特認校制度・弾力化制度なしで過小規模校）※ 天名小学校（過小規模校） 合川小学校（小規模特認校制度ありで小規模校，なしで過小規模校）
白子中学校区	白子中学校（過大規模校） 桜島小学校（過大規模校） 旭が丘小学校（過大規模校） 稲生小学校（大規模校）

※天栄中学校については，白子中学校の対策との関連で検討する。

(2) 検討事項の設定

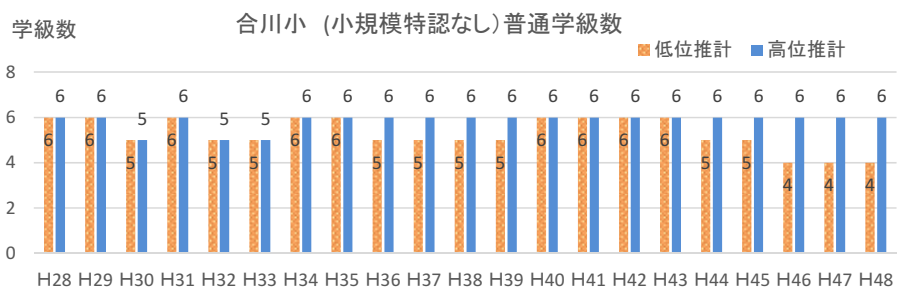
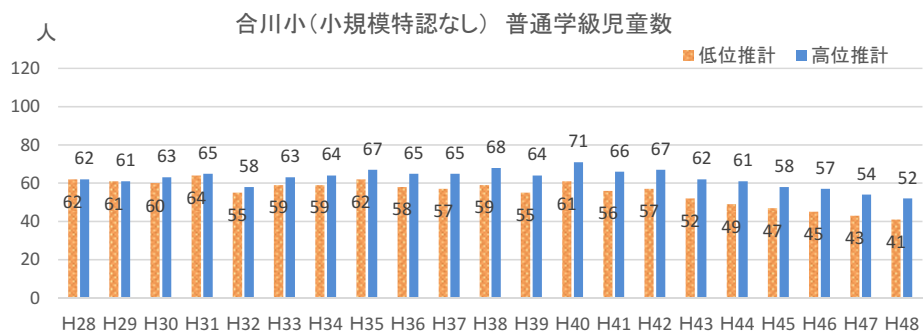
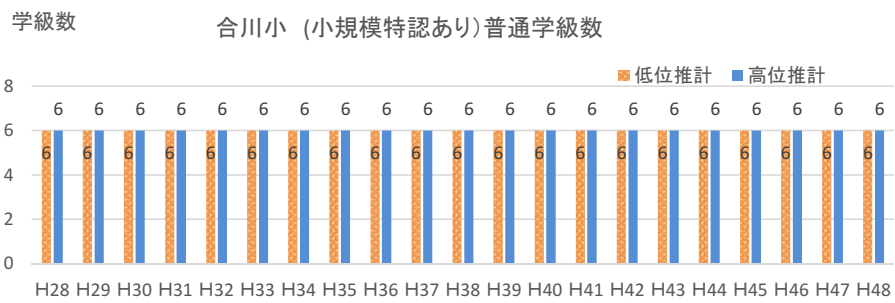
中学校区ごとに，児童数・学級数の推計に基づき，次のように検討事項を設定する。

①鈴峰中学校区

課題校	庄内小学校（過小規模校）、椿小学校（小規模校）、深伊沢小学校（小規模校）																																																																																																																																				
児童数・学級数の推計	<p>○現在、庄内小学校の全校児童数は85名と少ない。今後、児童数の減少が予想され、低位推計では平成33年、高位推計では平成41年には複式学級が発生する可能性がある。</p> <p>○平成28年4月現在の住民基本台帳の各年齢の人数をもとに、転入・転出等の移動が全くないと仮定した場合の実数では、平成33年度まで複式学級にはならない見込みである。</p> <div style="text-align: center;"> <p>庄内小 普通学級児童数</p> <table border="1"> <caption>庄内小 普通学級児童数 (推計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>低位推計</th> <th>高位推計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>85</td><td>85</td></tr> <tr><td>H29</td><td>87</td><td>87</td></tr> <tr><td>H30</td><td>82</td><td>83</td></tr> <tr><td>H31</td><td>69</td><td>69</td></tr> <tr><td>H32</td><td>69</td><td>72</td></tr> <tr><td>H33</td><td>62</td><td>65</td></tr> <tr><td>H34</td><td>58</td><td>62</td></tr> <tr><td>H35</td><td>50</td><td>55</td></tr> <tr><td>H36</td><td>50</td><td>55</td></tr> <tr><td>H37</td><td>52</td><td>59</td></tr> <tr><td>H38</td><td>50</td><td>59</td></tr> <tr><td>H39</td><td>51</td><td>60</td></tr> <tr><td>H40</td><td>46</td><td>55</td></tr> <tr><td>H41</td><td>43</td><td>52</td></tr> <tr><td>H42</td><td>40</td><td>48</td></tr> <tr><td>H43</td><td>37</td><td>45</td></tr> <tr><td>H44</td><td>35</td><td>44</td></tr> <tr><td>H45</td><td>32</td><td>41</td></tr> <tr><td>H46</td><td>32</td><td>39</td></tr> <tr><td>H47</td><td>30</td><td>37</td></tr> <tr><td>H48</td><td>27</td><td>36</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>庄内小 普通学級数</p> <table border="1"> <caption>庄内小 普通学級数 (推計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>低位推計</th> <th>高位推計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H29</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H31</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H32</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H33</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H34</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H35</td><td>4</td><td>6</td></tr> <tr><td>H36</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H37</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H38</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H39</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H40</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>H41</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>H42</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>H43</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H44</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H45</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H46</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H47</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>H48</td><td>3</td><td>4</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	低位推計	高位推計	H28	85	85	H29	87	87	H30	82	83	H31	69	69	H32	69	72	H33	62	65	H34	58	62	H35	50	55	H36	50	55	H37	52	59	H38	50	59	H39	51	60	H40	46	55	H41	43	52	H42	40	48	H43	37	45	H44	35	44	H45	32	41	H46	32	39	H47	30	37	H48	27	36	年度	低位推計	高位推計	H28	6	6	H29	6	6	H30	6	6	H31	6	6	H32	6	6	H33	5	6	H34	5	6	H35	4	6	H36	5	6	H37	5	6	H38	5	6	H39	5	6	H40	5	6	H41	4	5	H42	4	5	H43	4	4	H44	4	4	H45	4	4	H46	4	4	H47	3	4	H48	3	4
年度	低位推計	高位推計																																																																																																																																			
H28	85	85																																																																																																																																			
H29	87	87																																																																																																																																			
H30	82	83																																																																																																																																			
H31	69	69																																																																																																																																			
H32	69	72																																																																																																																																			
H33	62	65																																																																																																																																			
H34	58	62																																																																																																																																			
H35	50	55																																																																																																																																			
H36	50	55																																																																																																																																			
H37	52	59																																																																																																																																			
H38	50	59																																																																																																																																			
H39	51	60																																																																																																																																			
H40	46	55																																																																																																																																			
H41	43	52																																																																																																																																			
H42	40	48																																																																																																																																			
H43	37	45																																																																																																																																			
H44	35	44																																																																																																																																			
H45	32	41																																																																																																																																			
H46	32	39																																																																																																																																			
H47	30	37																																																																																																																																			
H48	27	36																																																																																																																																			
年度	低位推計	高位推計																																																																																																																																			
H28	6	6																																																																																																																																			
H29	6	6																																																																																																																																			
H30	6	6																																																																																																																																			
H31	6	6																																																																																																																																			
H32	6	6																																																																																																																																			
H33	5	6																																																																																																																																			
H34	5	6																																																																																																																																			
H35	4	6																																																																																																																																			
H36	5	6																																																																																																																																			
H37	5	6																																																																																																																																			
H38	5	6																																																																																																																																			
H39	5	6																																																																																																																																			
H40	5	6																																																																																																																																			
H41	4	5																																																																																																																																			
H42	4	5																																																																																																																																			
H43	4	4																																																																																																																																			
H44	4	4																																																																																																																																			
H45	4	4																																																																																																																																			
H46	4	4																																																																																																																																			
H47	3	4																																																																																																																																			
H48	3	4																																																																																																																																			
検討事項	<p>○過小規模校と近隣の小学校の統合を検討する場合、次のような方法が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2校を統合する場合、小学校の校舎の増築等を伴わないように、両校の児童数を合わせても各学年1学級となる時期に統合を行う。 ・鈴峰中学校区で将来的に小中一貫教育を行うことを見据え、統合する小学校の校舎の増築等を行う時期に、2校以上を統合する。 																																																																																																																																				

②天栄中学校区

<p>課題校</p>	<p>天栄中学校（標準学級編成の場合，小規模特認校制度・弾力化制度なしで過小規模校）（天栄中学校については，白子中学校の対策との関連で検討） 天名小学校（過小規模校） 合川小学校（小規模特認校制度ありで小規模校，なしで過小規模校）</p>																																																																																																																																																																																																						
<p>児童数・学級数の推計</p>	<p>○現在，天名小学校の全校児童数は94名と少ない。今後，児童数は一時的に増加するが，その後は減少傾向と推計される。学級数は，6学級を維持しているが，低位推計の場合には平成48年に複式学級になる可能性がある。</p> <div data-bbox="406 604 1324 1232"> <p>天名小 普通学級児童数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>低位推計</th> <th>高位推計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>94</td><td>94</td></tr> <tr><td>H29</td><td>108</td><td>110</td></tr> <tr><td>H30</td><td>109</td><td>112</td></tr> <tr><td>H31</td><td>94</td><td>99</td></tr> <tr><td>H32</td><td>93</td><td>98</td></tr> <tr><td>H33</td><td>87</td><td>92</td></tr> <tr><td>H34</td><td>89</td><td>95</td></tr> <tr><td>H35</td><td>74</td><td>82</td></tr> <tr><td>H36</td><td>77</td><td>84</td></tr> <tr><td>H37</td><td>74</td><td>85</td></tr> <tr><td>H38</td><td>77</td><td>89</td></tr> <tr><td>H39</td><td>73</td><td>86</td></tr> <tr><td>H40</td><td>68</td><td>80</td></tr> <tr><td>H41</td><td>65</td><td>77</td></tr> <tr><td>H42</td><td>63</td><td>74</td></tr> <tr><td>H43</td><td>58</td><td>71</td></tr> <tr><td>H44</td><td>56</td><td>70</td></tr> <tr><td>H45</td><td>57</td><td>70</td></tr> <tr><td>H46</td><td>54</td><td>67</td></tr> <tr><td>H47</td><td>52</td><td>67</td></tr> <tr><td>H48</td><td>52</td><td>66</td></tr> </tbody> </table> <p>天名小 普通学級数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>低位推計</th> <th>高位推計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H29</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H31</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H32</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H33</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H34</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H35</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H36</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H37</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H38</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H39</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H40</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H41</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H42</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H43</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H44</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H45</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H46</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H47</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H48</td><td>5</td><td>6</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>○現在，合川小学校（小規模特認あり）の全校児童数は87名と少ない。小規模特認校制度を継続する場合，児童数は一時的に増加するが，その後は減少傾向と推計される。学級数は6学級を維持する。 小規模特認校制度がないと仮定すると，現在の全校児童数は62人まで減少し，今後，ゆるやかな減少傾向と推計される。学級数は，早ければ平成30年には複式学級になると推計される。</p> <div data-bbox="406 1556 1324 1848"> <p>合川小(小規模特認あり) 普通学級児童数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>低位推計</th> <th>高位推計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>87</td><td>87</td></tr> <tr><td>H29</td><td>90</td><td>91</td></tr> <tr><td>H30</td><td>92</td><td>94</td></tr> <tr><td>H31</td><td>99</td><td>104</td></tr> <tr><td>H32</td><td>94</td><td>96</td></tr> <tr><td>H33</td><td>90</td><td>94</td></tr> <tr><td>H34</td><td>87</td><td>94</td></tr> <tr><td>H35</td><td>91</td><td>97</td></tr> <tr><td>H36</td><td>86</td><td>93</td></tr> <tr><td>H37</td><td>84</td><td>91</td></tr> <tr><td>H38</td><td>84</td><td>92</td></tr> <tr><td>H39</td><td>81</td><td>90</td></tr> <tr><td>H40</td><td>84</td><td>95</td></tr> <tr><td>H41</td><td>80</td><td>91</td></tr> <tr><td>H42</td><td>82</td><td>91</td></tr> <tr><td>H43</td><td>74</td><td>85</td></tr> <tr><td>H44</td><td>73</td><td>84</td></tr> <tr><td>H45</td><td>68</td><td>79</td></tr> <tr><td>H46</td><td>67</td><td>79</td></tr> <tr><td>H47</td><td>64</td><td>76</td></tr> <tr><td>H48</td><td>61</td><td>72</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	低位推計	高位推計	H28	94	94	H29	108	110	H30	109	112	H31	94	99	H32	93	98	H33	87	92	H34	89	95	H35	74	82	H36	77	84	H37	74	85	H38	77	89	H39	73	86	H40	68	80	H41	65	77	H42	63	74	H43	58	71	H44	56	70	H45	57	70	H46	54	67	H47	52	67	H48	52	66	年度	低位推計	高位推計	H28	6	6	H29	6	6	H30	6	6	H31	6	6	H32	6	6	H33	6	6	H34	6	6	H35	6	6	H36	6	6	H37	6	6	H38	6	6	H39	6	6	H40	6	6	H41	6	6	H42	6	6	H43	6	6	H44	6	6	H45	6	6	H46	6	6	H47	6	6	H48	5	6	年度	低位推計	高位推計	H28	87	87	H29	90	91	H30	92	94	H31	99	104	H32	94	96	H33	90	94	H34	87	94	H35	91	97	H36	86	93	H37	84	91	H38	84	92	H39	81	90	H40	84	95	H41	80	91	H42	82	91	H43	74	85	H44	73	84	H45	68	79	H46	67	79	H47	64	76	H48	61	72
年度	低位推計	高位推計																																																																																																																																																																																																					
H28	94	94																																																																																																																																																																																																					
H29	108	110																																																																																																																																																																																																					
H30	109	112																																																																																																																																																																																																					
H31	94	99																																																																																																																																																																																																					
H32	93	98																																																																																																																																																																																																					
H33	87	92																																																																																																																																																																																																					
H34	89	95																																																																																																																																																																																																					
H35	74	82																																																																																																																																																																																																					
H36	77	84																																																																																																																																																																																																					
H37	74	85																																																																																																																																																																																																					
H38	77	89																																																																																																																																																																																																					
H39	73	86																																																																																																																																																																																																					
H40	68	80																																																																																																																																																																																																					
H41	65	77																																																																																																																																																																																																					
H42	63	74																																																																																																																																																																																																					
H43	58	71																																																																																																																																																																																																					
H44	56	70																																																																																																																																																																																																					
H45	57	70																																																																																																																																																																																																					
H46	54	67																																																																																																																																																																																																					
H47	52	67																																																																																																																																																																																																					
H48	52	66																																																																																																																																																																																																					
年度	低位推計	高位推計																																																																																																																																																																																																					
H28	6	6																																																																																																																																																																																																					
H29	6	6																																																																																																																																																																																																					
H30	6	6																																																																																																																																																																																																					
H31	6	6																																																																																																																																																																																																					
H32	6	6																																																																																																																																																																																																					
H33	6	6																																																																																																																																																																																																					
H34	6	6																																																																																																																																																																																																					
H35	6	6																																																																																																																																																																																																					
H36	6	6																																																																																																																																																																																																					
H37	6	6																																																																																																																																																																																																					
H38	6	6																																																																																																																																																																																																					
H39	6	6																																																																																																																																																																																																					
H40	6	6																																																																																																																																																																																																					
H41	6	6																																																																																																																																																																																																					
H42	6	6																																																																																																																																																																																																					
H43	6	6																																																																																																																																																																																																					
H44	6	6																																																																																																																																																																																																					
H45	6	6																																																																																																																																																																																																					
H46	6	6																																																																																																																																																																																																					
H47	6	6																																																																																																																																																																																																					
H48	5	6																																																																																																																																																																																																					
年度	低位推計	高位推計																																																																																																																																																																																																					
H28	87	87																																																																																																																																																																																																					
H29	90	91																																																																																																																																																																																																					
H30	92	94																																																																																																																																																																																																					
H31	99	104																																																																																																																																																																																																					
H32	94	96																																																																																																																																																																																																					
H33	90	94																																																																																																																																																																																																					
H34	87	94																																																																																																																																																																																																					
H35	91	97																																																																																																																																																																																																					
H36	86	93																																																																																																																																																																																																					
H37	84	91																																																																																																																																																																																																					
H38	84	92																																																																																																																																																																																																					
H39	81	90																																																																																																																																																																																																					
H40	84	95																																																																																																																																																																																																					
H41	80	91																																																																																																																																																																																																					
H42	82	91																																																																																																																																																																																																					
H43	74	85																																																																																																																																																																																																					
H44	73	84																																																																																																																																																																																																					
H45	68	79																																																																																																																																																																																																					
H46	67	79																																																																																																																																																																																																					
H47	64	76																																																																																																																																																																																																					
H48	61	72																																																																																																																																																																																																					



検討事項

- 複式学級が発生する可能性のある過小規模校については、一定の集団規模の児童数を確保するために、近隣の学校との統合について検討を開始する。
- 過小規模校と近隣の学校との統合を検討する場合、統合する小学校の校舎の増築等を極力行わないことを考慮するものとするが、将来的に天栄中学校区において小中一貫教育を行うことを見据え2校以上を統合する場合は、所要の校舎の増築等を行うことも視野に入れる。
- 現在、実施している合川小学校における小規模特認校制度については、当面は継続したほうが良いと考えるが、近隣校の状況によっては、統合を含めた検討を要する。

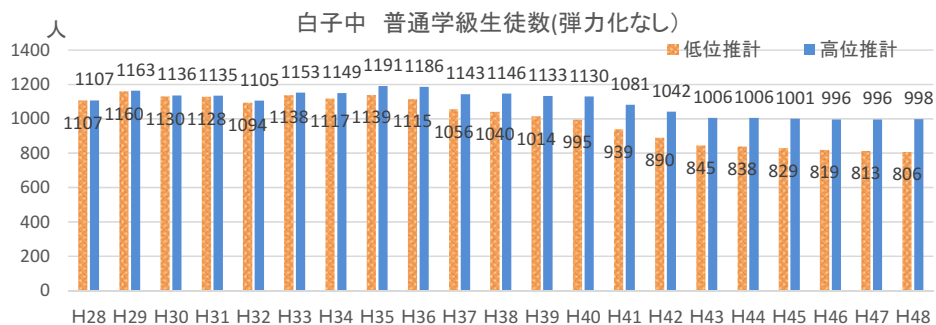
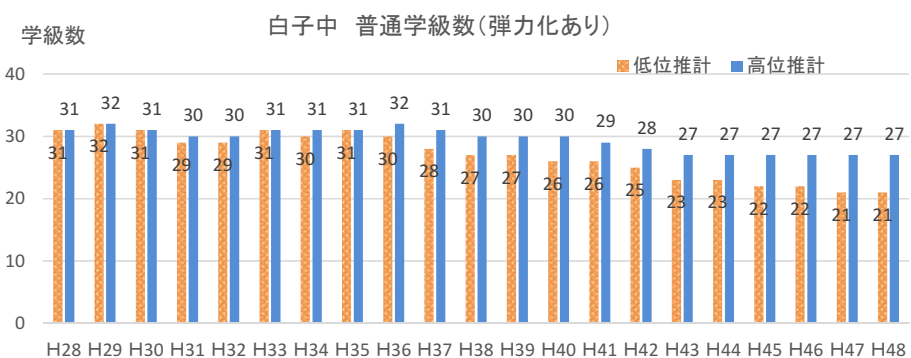
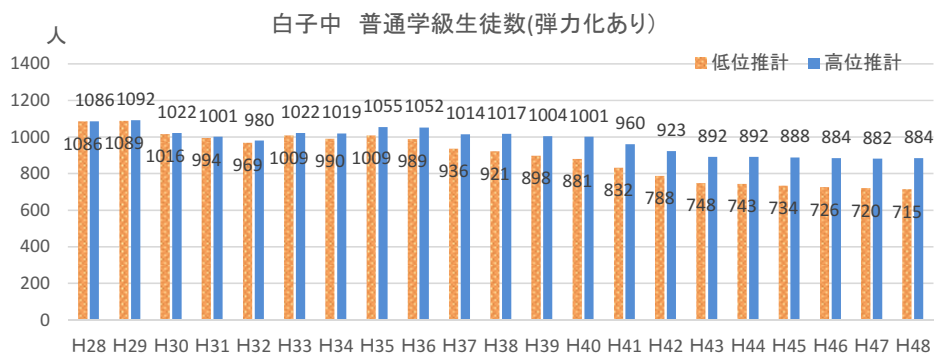
③白子中学校区

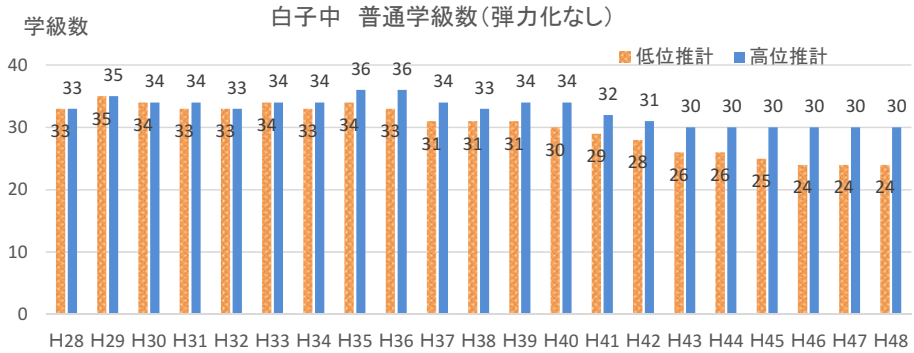
課題校	白子中学校（過大規模校） 桜島小学校（過大規模校），旭が丘小学校（過大規模校）， 稲生小学校（大規模校）
-----	--

③-1 白子中学校（過大規模校）

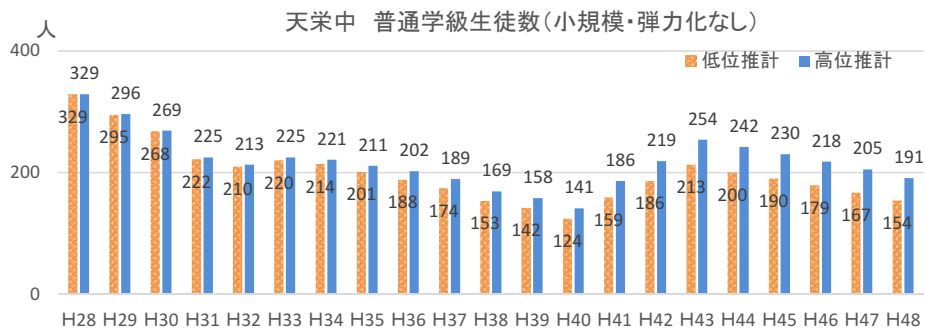
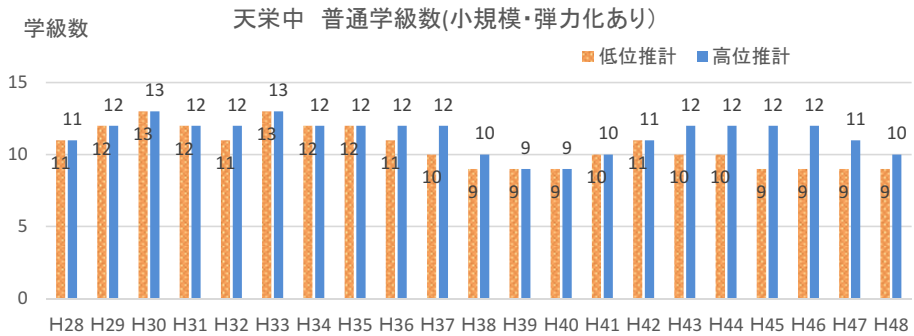
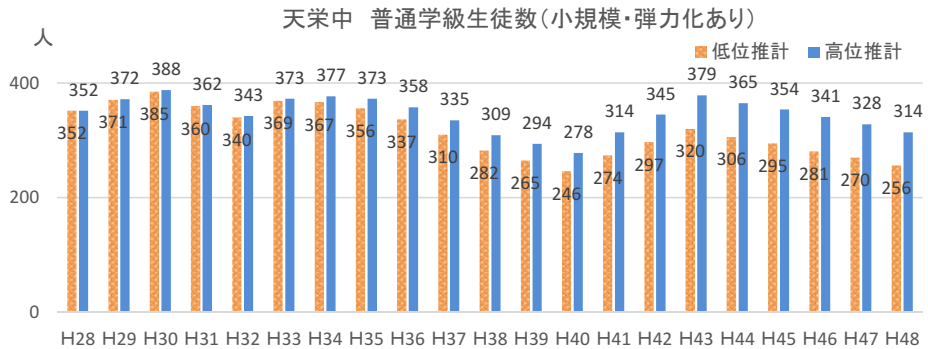
生徒数・学級数の推計

○白子中学校の普通学級は，現在 31 学級であり，弾力化制度を適用しているが，今後は生徒数が減少し，人口推計ケースによって異なるが，平成 48 年には 21 学級～27 学級程度まで減少すると推計される。弾力化制度を継続する場合も，推計にもよるが，平成 35 年から 37 年まで過大規模校のまま推移し，弾力化制度がない場合には，平成 33 年までの 5 年間で 33 学級～35 学級に増加し，過大規模校である期間が更に長くなると推計される。





○隣接する天栄中学校は、小規模・弾力化制度がある場合には、学級数が9学級～13学級となり適正規模校となる。しかし、小規模・弾力化制度がない場合には、過密解消学級編制では6学級、標準学級編制では5学級まで減少する可能性がある。

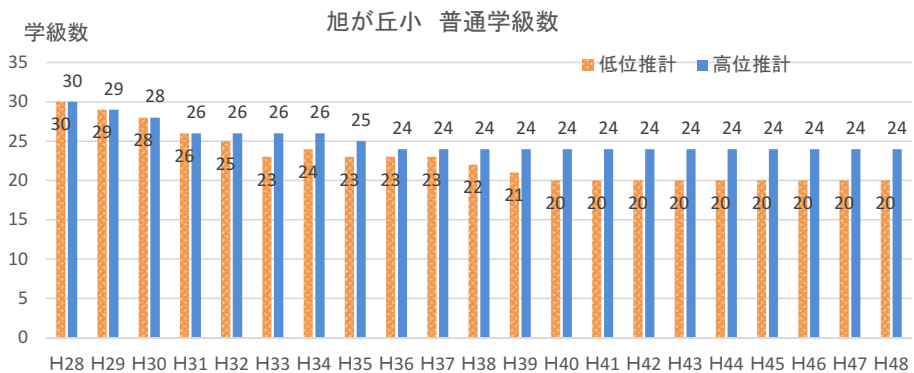
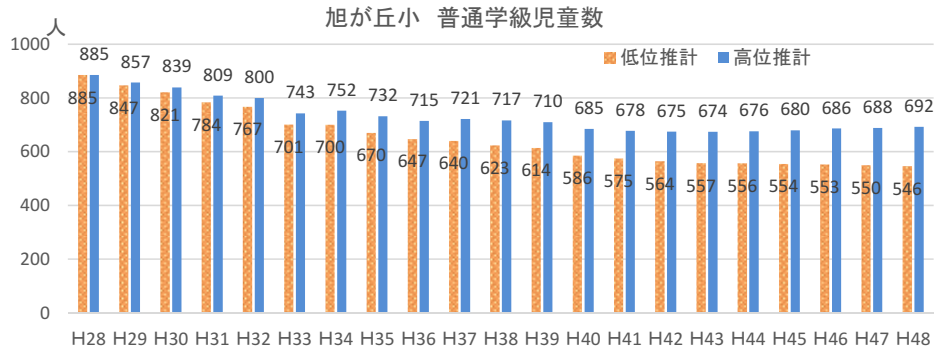


	<p style="text-align: center;">学級数</p> <p style="text-align: center;">天栄中 普通学級数(小規模・弾力化なし)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>低位</th> <th>高位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>H29</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>H30</td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>H31</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>H32</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>H33</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>H34</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>H35</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>H36</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>H37</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H38</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H39</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H40</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H41</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>H42</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>H43</td><td>7</td><td>9</td></tr> <tr><td>H44</td><td>6</td><td>9</td></tr> <tr><td>H45</td><td>6</td><td>9</td></tr> <tr><td>H46</td><td>6</td><td>8</td></tr> <tr><td>H47</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>H48</td><td>6</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	学年	低位	高位	H28	11	11	H29	10	10	H30	9	9	H31	8	8	H32	7	7	H33	8	8	H34	8	8	H35	7	7	H36	7	7	H37	6	6	H38	6	6	H39	6	6	H40	6	6	H41	7	7	H42	8	8	H43	7	9	H44	6	9	H45	6	9	H46	6	8	H47	6	7	H48	6	6
学年	低位	高位																																																																	
H28	11	11																																																																	
H29	10	10																																																																	
H30	9	9																																																																	
H31	8	8																																																																	
H32	7	7																																																																	
H33	8	8																																																																	
H34	8	8																																																																	
H35	7	7																																																																	
H36	7	7																																																																	
H37	6	6																																																																	
H38	6	6																																																																	
H39	6	6																																																																	
H40	6	6																																																																	
H41	7	7																																																																	
H42	8	8																																																																	
H43	7	9																																																																	
H44	6	9																																																																	
H45	6	9																																																																	
H46	6	8																																																																	
H47	6	7																																																																	
H48	6	6																																																																	
<p>検討事項</p>	<p>○白子中学校区における通学区域の弾力化については、天栄中学校の規模も考慮しつつ、継続するのか、早期に通学区域の一部変更を行うか検討を要する。</p>																																																																		

③-2 旭が丘小学校（過大規模校）

児童数・学級数の推計

○旭が丘小学校の普通学級は現在 30 学級であり、現状の特別支援学級を含めると 34 学級となり、現状では過大規模校である。今後は生徒数が減少し、人口推計ケースによって異なるが、平成 48 年には 20 学級～24 学級程度まで減少すると推計される。
ただし、標準学級数での推計では、現状で 26 学級となる。



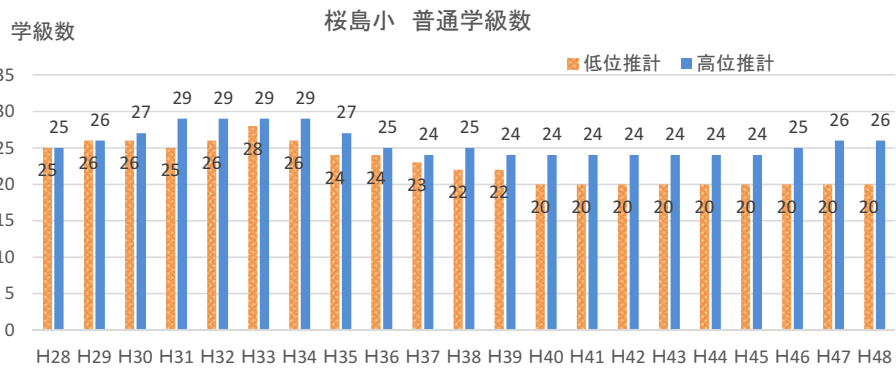
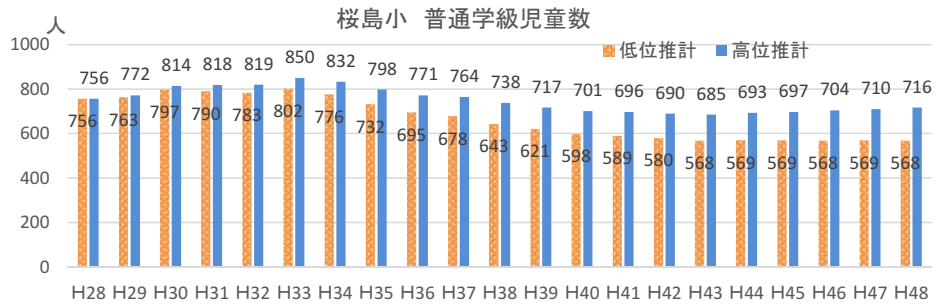
検討事項

○旭が丘小学校区の一部自治会等を隣接する小学校区へ編入することにより、通学区域の一部を変更することも検討が必要である。

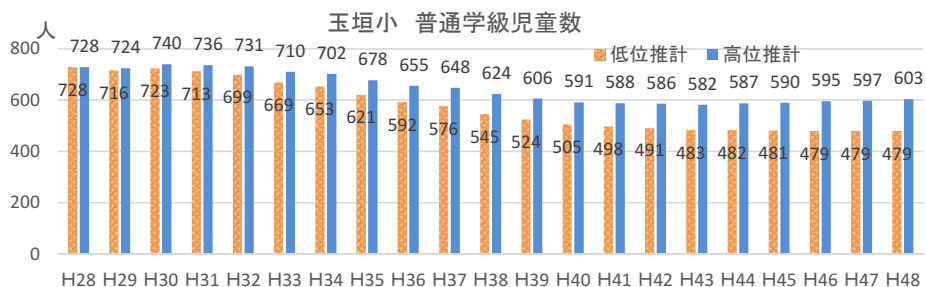
③-3 桜島小学校（過大規模校）

児童数・学級数の推計

○桜島小学校の普通学級は、現在 25 学級であり、今後は一旦増加し、高位推計では 29 学級となり、現状の特別支援学級数を含めると過大規模校となる可能性があるが、平成 38 年には 22～25 学級と推計され、適正規模をやや上回る程度となる。



○隣接する玉垣小学校の児童数は、平成 32 年までは微増の可能性（高位推計）があるが、その後は減少すると推計される。学級数は、現在 25 学級であるが、平成 34 年までは 25 あるいは 26 学級の大規模校のままであり、をその後は 24 学級以下の適正規模校になる。

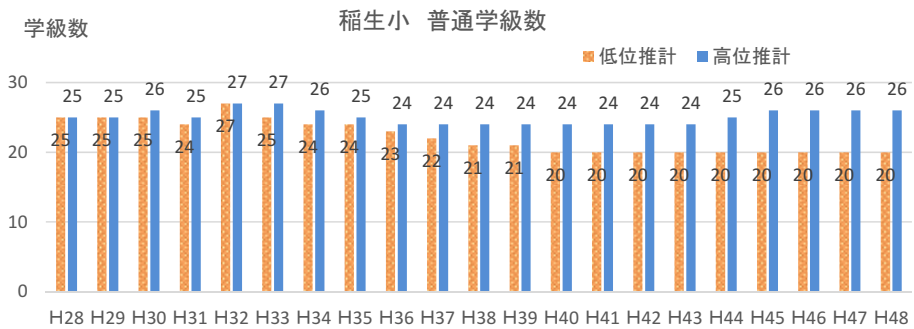
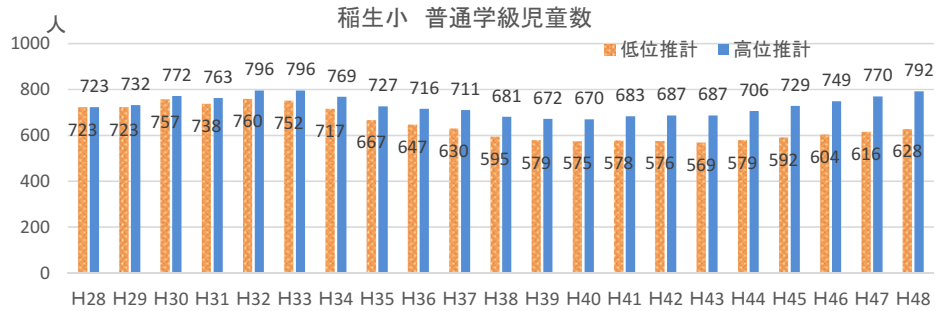


	<p style="text-align: center;">学級数 玉垣小 普通学級数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>低位推計</th> <th>高位推計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>25</td><td>25</td></tr> <tr><td>H29</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>H30</td><td>24</td><td>26</td></tr> <tr><td>H31</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>H32</td><td>24</td><td>24</td></tr> <tr><td>H33</td><td>23</td><td>25</td></tr> <tr><td>H34</td><td>23</td><td>25</td></tr> <tr><td>H35</td><td>23</td><td>23</td></tr> <tr><td>H36</td><td>19</td><td>24</td></tr> <tr><td>H37</td><td>20</td><td>23</td></tr> <tr><td>H38</td><td>19</td><td>22</td></tr> <tr><td>H39</td><td>18</td><td>21</td></tr> <tr><td>H40</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H41</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H42</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H43</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H44</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H45</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H46</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H47</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr><td>H48</td><td>18</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>	学年	低位推計	高位推計	H28	25	25	H29	24	25	H30	24	26	H31	24	25	H32	24	24	H33	23	25	H34	23	25	H35	23	23	H36	19	24	H37	20	23	H38	19	22	H39	18	21	H40	18	20	H41	18	20	H42	18	20	H43	18	20	H44	18	20	H45	18	20	H46	18	20	H47	18	20	H48	18	20
学年	低位推計	高位推計																																																																	
H28	25	25																																																																	
H29	24	25																																																																	
H30	24	26																																																																	
H31	24	25																																																																	
H32	24	24																																																																	
H33	23	25																																																																	
H34	23	25																																																																	
H35	23	23																																																																	
H36	19	24																																																																	
H37	20	23																																																																	
H38	19	22																																																																	
H39	18	21																																																																	
H40	18	20																																																																	
H41	18	20																																																																	
H42	18	20																																																																	
H43	18	20																																																																	
H44	18	20																																																																	
H45	18	20																																																																	
H46	18	20																																																																	
H47	18	20																																																																	
H48	18	20																																																																	
<p>検討事項</p>	<p>○桜島小学校区の一部自治会等を隣接する小学校区へ編入することにより，通学区域の一部を変更することも検討が必要である。</p>																																																																		

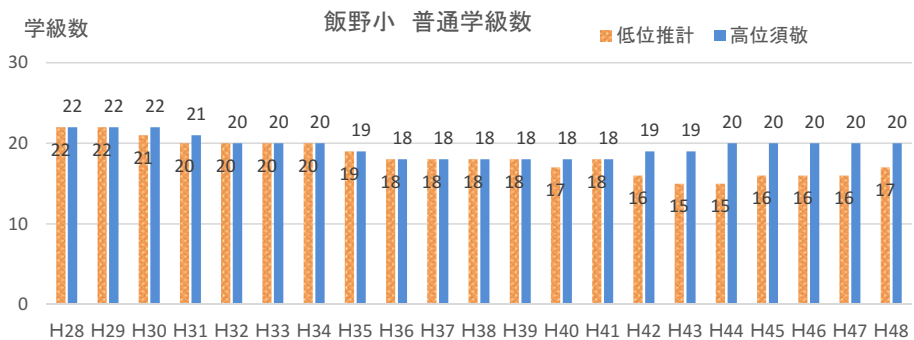
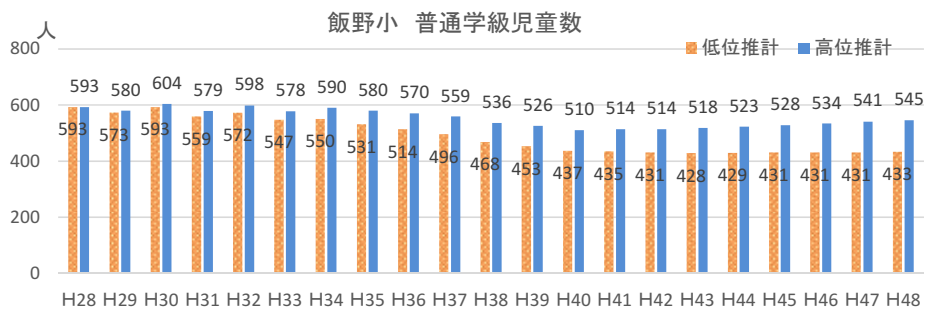
③-4 稲生小学校（大規模校）

児童数・学級数の推計

○稲生小学校の普通学級は、現在 25 学級である。今後は児童数が一時的に増加し、その後減少するものの平成 41 年以降微増と推計される。普通学級数は、平成 34 年までは最大 27 学級まで増加するが、平成 43 年までは 20 学級～24 学級まで減少する。



○隣接する飯野小学校の普通学級は、現在 22 学級である。今後、児童数は横ばいか減少傾向と推計され、学級数も横ばいから減少傾向になる。



検討事項

○稲生小学校区の一部自治会等を隣接する小学校区へ編入することにより、通学区域の一部を変更することも検討が必要である。

參考資料

参考資料 1 他分野の施設と連携した再編可能性の検討

(1) 他都市事例の整理

学校施設と他分野の施設で連携して再編した事例について整理する。整理にあたっては学校施設同士の再編・統合するケースと他分野施設を再編・複合化するケースの2種類で整理する。

① 統合・複合

1) 学校関連（学校施設同士の再編・統合）

学校施設同士の再編・統合については、幼保小連携パターンと小中一貫校パターンの2種類ごとに整備方法2種類での4事例を整理する。

図表 学校施設同士の再編・複合化の事例

テーマ	区分	整備方法	事例	複合等
学校施設同士の再編・統合	幼保小連携	既存	事1 東京都世田谷区立砧南中学校	保育所
		新設	事2 東京都台東区立上野小学校	幼稚園，公民館，区民プール
	小中一貫校	既存利用	事3 福島県郡山市立湖南小中学校	小中学校
		新設	事4 茨城県つくば市立春日学園	小中学校

資料：学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（文部科学省 平成27年11月）
小中一貫教育に適した学校施設の在り方について（文部科学省 平成27年7月）

2) 他分野施設（公共施設全体の再編・複合化）

他分野施設との再編・複合化については、整備方法2種類で整理する。

図表 他の公共施設等との再編・複合化の事例

テーマ	区分	整備方法	事例	複合等
他分野施設	社会教育施設，社会体育施設，児童福祉施設，高齢者福祉施設，その他の福祉・医療施設，行政施設	既存	事5 京都府宇治市立小倉小学校	老人デイサービスセンター，地域包括支援センター
		新設	事6 富山県南砺市立利賀小学校・利賀中学校	放課後こども教室，公民館

資料：学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（文部科学省 平成27年11月）

事1 東京都世田谷区立砧南中学校

東京都世田谷区さぬたみなみ 世田谷区立砧南中学校

余裕教室を活用して中学校内に保育所を整備

- ・余裕教室を改修して0～2歳児用の保育所を整備
- ・消防法に基づく消防用設備の規制が既存建物に及ばないよう、学校部分と保育所部分の間は耐火構造の壁で区画。

- 学校規模 / 12学級 426名
- 複合施設(床面積) / 中学校 (7,566㎡)
保育所 (237㎡)
- 整備時期 / 昭和51年(既存校舎)
平成14年(保育所部分を改修)
- 構造 / RC造地上4階

施設整備に要した期間(構想・計画等から工事まで)

平成13年度：余裕教室の有効活用として単年度で改修工事を実施



余裕教室を活用して整備した保育所

施設整備の背景

平成13年当時、砧南中学校の周辺は特に待機児童が多かったことから、余裕教室を活用して保育所を整備することとした。

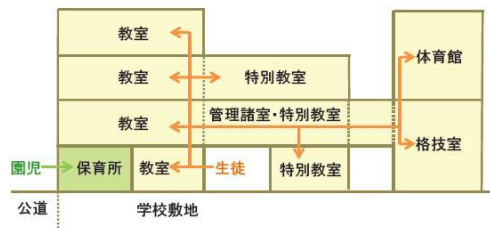
管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
中学校	←→				教育委員会	教育委員会
保育所	←→				区長部局	民間事業者

施設の配置・動線

- ・校舎棟の1階の端の2教室分を保育所に転用。
- ・中学校の動線と明確に区分するため、中学校正門とは別に、保育所用の門を新たに設置するとともに、敷地内もフェンスで区分。

<立面図>

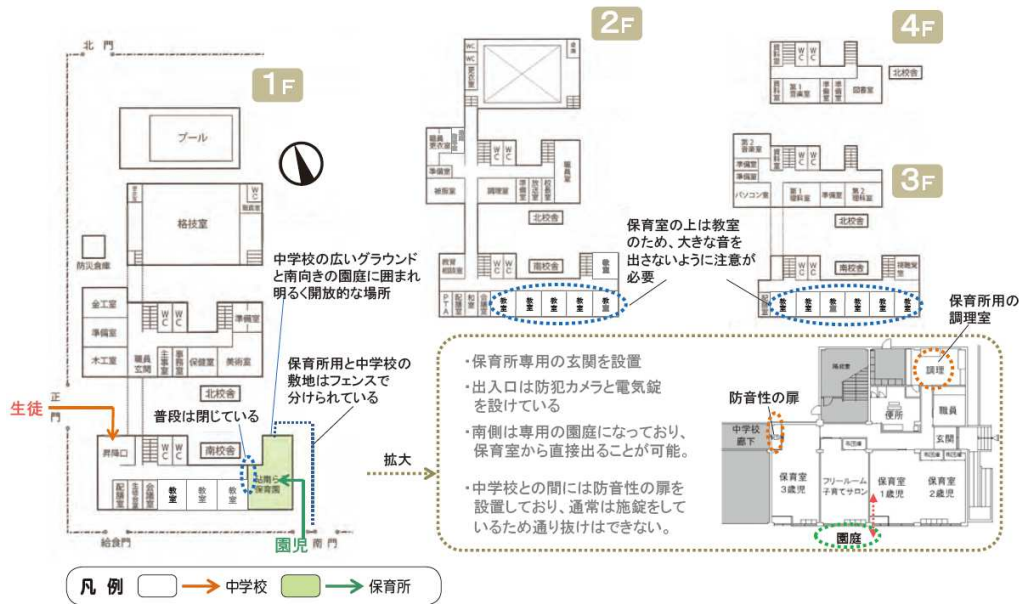


凡例 □ 中学校 → 保育所

<配置図>



平面計画上の特徴



屋外動線の分離

- ・中学校の動線と明確に区分するため、中学校正門とは別に、保育所用の門を設置。門は、電気錠付きとなり、インターホンで確認して解錠が可能。



- ・敷地内には、中学校部分との動線の交錯がないよう、フェンスを設置。その上部には、部活動等で飛んでくるボールの対策として防球ネットを設置。



- ・屋外スペースを専用の園庭として利用しており、都の認証保育所の中では恵まれた保育環境となっている。



→既存学校施設を活用しつつ、必要な安全性を確保

保育所と中学校の交流

- ・中学校の体育祭において園児が出場する「保育園競技」を取り入れるなど、生徒と園児の交流を図っている。
- ・中学生が職場体験として保育所を訪れたり、家庭科の授業の一環として保育体験を行っている。
- ・中学生の発案によりバザーの収益で紙芝居を園児にプレゼントしたこともある。

→生徒たちの園児との交流による思いやりの心の醸成

保育所整備のための余裕教室の改修

- ・トイレや調理室用の水回りを整備するため床を高く整備。
- ・消防法に基づく消防設備の規制が既存建物に及ばないように、学校部分とは耐火構造の壁で区画。
- ・学校部分との間には扉を設置し、通常時は施錠しているが、避難時には通り抜けが可能。



水回りのために床を高く整備するとともに、中学校との間に避難用の扉（防火扉）を設置

委員の意見より

- ・体育祭への園児の参加、家庭科実習や職業体験への保育所の協力、中学生による絵本の読み聞かせ活動等を行っていることや、卒業生が本園職員として8年間働くといった実績もあり、中学校と園との繋がりが強くあることが伺える。

事2 東京都台東区立上野小学校

東京都台東区 台東区立上野小学校

インテリジェント・スクールの先駆的事例

- ・地域の生涯学習拠点としての複合施設
～地域の学校教育・生涯学習への意識・関心を高め合う施設
- ・明確な管理区分による防犯対策

- 学校規模 / 12 学級 294 名
- 複合施設(床面積) / 小学校 (6,608㎡)
幼稚園 (464㎡)
社会教育センター (1,689㎡)
社会体育施設 (1,906㎡)
- 整備時期 / 平成 3 年
- 構造 / RC 造地上 4 階地下 1 階

施設整備に要した期間(構想・計画等から工事まで)

昭和 62 年度：文部省インテリジェントスクール研究委託先
平成元年 10 月～平成 3 年 3 月：建設工事実施



小学校と社会教育施設をつなぐアプローチギャラリー

施設整備の背景

- ・清島小と下谷小の統廃合によりできた小学校。
- ・旧清島小に併設されていた社会教育施設と幼稚園との複合施設として整備。
- ・昭和 62 年度文部省インテリジェントスクール研究委託先。

管理・運営の体制

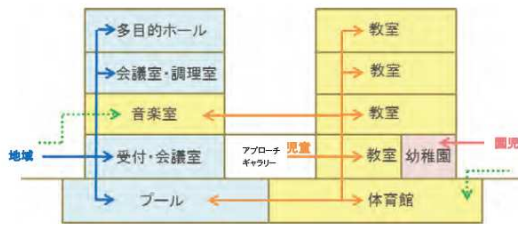
施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←→				教育委員会	教育委員会
幼稚園	←→				教育委員会	教育委員会
社会教育センター	←→				教育委員会	指定管理者

- ・社会教育センターは指定管理者制度により民間企業が運営している。(施設全体の維持管理も同企業が請け負っている。)

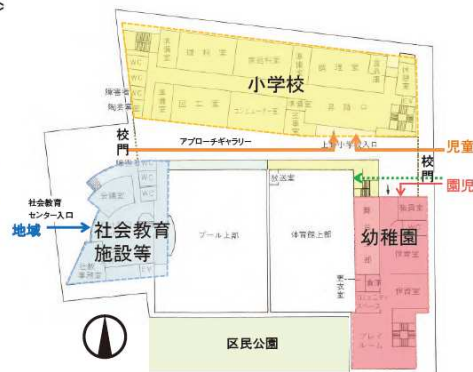
施設の配置・動線

- ・施設内において、小学校、幼稚園、社会教育施設等の区域は隣接しているものの、動線や利用時間を分けることで明確に区分されている。

<立面図>

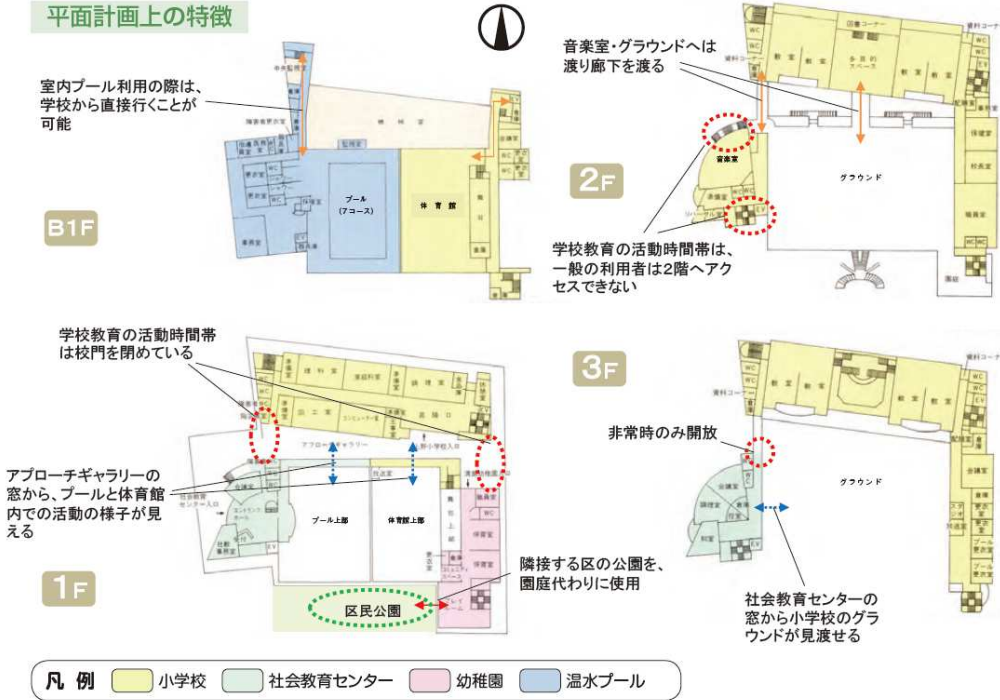


<配置図>



- 凡例
- 黄色 → 小学校
 - 赤色 → 幼稚園
 - 青灰色 → 社会教育施設・プール
 - 青線 → 地域
 - 緑線 → 学校開放

平面計画上の特徴



児童と地域間の交流

- ・施設間での意識的な交流は少ないが、児童は日常的に地域の利用者が社会教育施設で活動する姿を見ることができる。
- ・社会教育センターからも学校の教育活動の様子が見える。



⇒相互の活動に対する理解・関心が高められている

財政面

整備費用を抑えることを目的とした複合化ではなく、施設間の設備の共有も少ない。(例：学校プールと区民プールを別に設けている。)

委員の意見より

- ・3つの施設が明確に分離され、防犯上の問題は少なく施設管理がしやすい構成。
- ・各施設が分離されていても、運営面の工夫により交流を活発化させることも可能。
- ・児童が、生涯学習を続ける地域住民の姿を普段から感じ取れる環境は、通常の学校では得難いものがある。

相互利用・活用

- ・小学校の音楽室は社会教育施設棟の2階にあり、学校教育の活動時間外には地域に開放をしている。
- ・幼稚園は専用の園庭を持っていないが、小学校のグラウンドと、隣接する台東区の清島児童遊園を利用している。
- ・区民プールは、小学校の授業でも利用が可能。



⇒公共施設を一体的に整備し共有することで、各施設の機能を有効に活用できている。

防犯面

- ・学校教育の活動時間内は学校の区域に一般の利用者が入れないように扉の施錠等、物理的な対策が取られている。



事3 福島県郡山市立湖南小中学校

増築・改修

湖南小中学校

福島県 郡山市立湖南小学校・湖南中学校



校舎外観

背景

湖南地区は少子・高齢化が進み、小学校の複式学級が年々増加傾向にあった。平成11年度に地域住民を中心として「湖南地区小学校の統合を促進する会」が発足。市に要望書を提出するなど、小学校の統合に向けた推進活動を実施した。

地区内の5つの小学校を「湖南小学校」として統合し、既存の中学校（湖南中）校舎の隣に小学校校舎を増築し、平成17年4月、小中一貫教育を開始した。

		学 年								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
運営状況	学年段階の区切り	小学部						中学部		
	授業方法	学級担任制						教科担任制		
	運営方式	特別教室型								
	授業時間	45分								
	校長	校長1人								
	副校長・教頭	小学校教頭1人						中学校教頭1人		
	部活動	なし						部活動		
	PTA	PTA組織を一本化								
	ゾーニング	1階		2階		2階		1階		
	校長室	1階								
施設利用状況	職員室	1階								
	保健室	1階						1階		
	特別支援学級	なし								
	音楽室	1階								
	家庭科室	2階								
	図書室	1階						1階		
	ランチルーム	2階(180席)								
	昇降口	1階								
	体育館	1階(アリーナ)						1階(アリーナ)		
	グラウンド	フレイコート				グラウンド				
プール	1階(屋内)						1階(屋外)			
給食室	1階(単独校方式)									

学校概要

学校規模	[小]普通:6学級(133人) [中]普通:3学級(72人)
学年段階の区切り	6-3
開校年	平成17年(2005年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	42,633㎡
延床面積	8,346㎡

教育上の特色

「ともに生き 未来を創る たくましい 湖南の子」を教育目標とし、地域に開かれた学校づくり、郷土学習の充実等地域連携の強化や恵まれた自然を活かした環境学習の充実を行うと共に、9年間を一貫させた教育課程の編成を行う。全国に先駆けて小中一貫教育を開始したため、教員の異動や他校からの転出入を配慮し、6-3制を維持して小中一貫とした。低学年は、学級担任制を基本とし、小学3～4年生から緩やかに教科担任制を導入し、多くの教科で小中相互の乗り入れ授業を行っている。

また中学校教員による小学5～6年生への英語表現科授業に加え、外国人教師による英語表現科授業を小学1年生から実施している。

学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

計画・設計のポイント

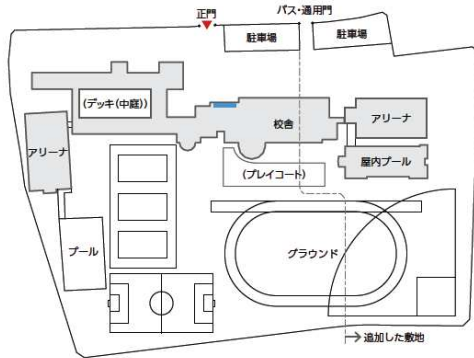
- 1.異学年交流スペースの充実
- 2.小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
- 3.地域と共にある学校施設の整備

施設上の特色

- 小学校の新校舎を既存の中学校の校舎と一体化させて増築。校舎と校庭は一体化したが、小学校の体育館、プールは新たに設置。遊具施設は校庭の校舎付近に置き、小学生が安心して遊べる天然芝生のプレイコートも設置。
- 管理諸室や特別教室は共有しており、管理諸室は校舎中央に、特別教室は利用頻度の高い中学校側に多く配置されている。増築した小学校棟には、多目的ホールやランチルーム、図書室等の小中の交流を促進する場所を多く設けている。
- 小学校校舎の増築には地元の杉材を多く使用。語り部の部屋や郷土資料室等、学校内に地域のコミュニティ拠点としての交流スペースを設けている。

配置図

S=1/3000



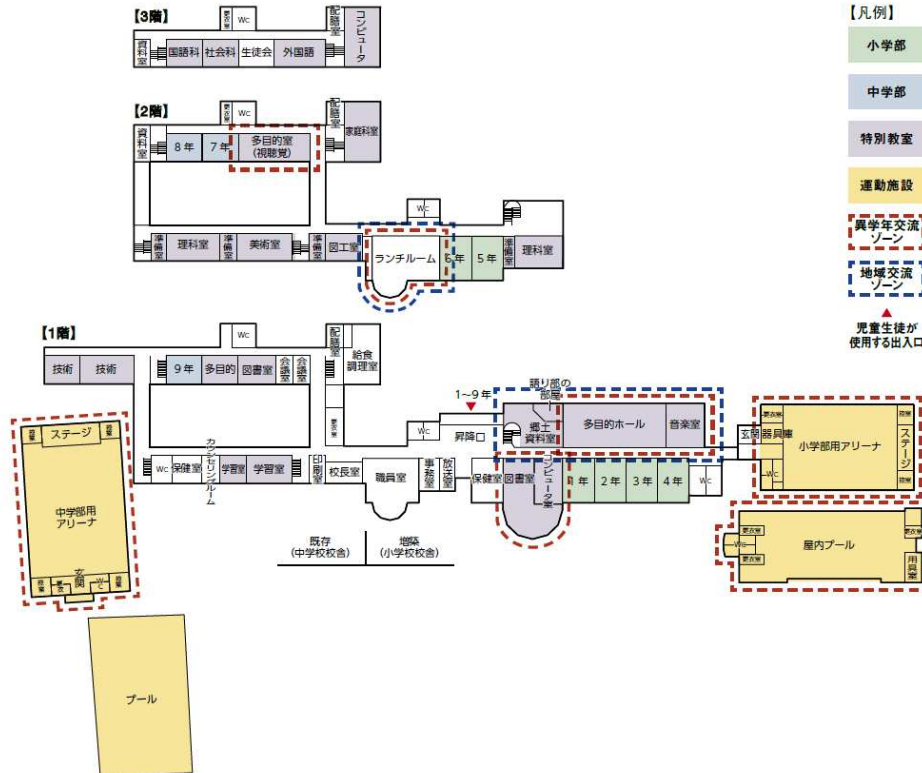
【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの中学校敷地 +新しい敷地	
面積	グラウンド	19,108m ²	
	校舎	小	7,274m ² 中 11,834m ²
		小	2,926m ² 中 3,640m ²
体育館		1,780m ²	
	小	922m ² 中 858m ²	

平面図

S=1/1500



【凡例】

- 小学部
- 中学部
- 特別教室
- 運動施設
- 異学年交流ゾーン
- 地域交流ゾーン
- ▲ 児童生徒が使用する出入口

1. 異学年交流スペースの充実

多目的ホール



広い空間と階段状の椅子を活かし、各教科の成果発表など、児童生徒のプレゼンテーション能力育成の場として利用されている。また、隣接する音楽室と一体的に使用することもでき、小中合同の始業式や終業式、吹奏楽部等の部活動にも使用している。

ランチルーム



校舎中央に配置されたランチルームでは、児童生徒が共に準備をし食事をとることで、自然なコミュニケーションが生まれる交流スペースとなっている。

図書室



小中で共同利用している図書室は、校舎中央に配置されている。また、昇降口に近く、スクールバスの待ち時間を過ごす場にもなっている。児童生徒が待ち時間にも、本を読んだり友人と話したり、それぞれ充実した時間を過ごせるようになっている。

2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

運動施設



湖南地区は多雪地域に位置し、冬季はグラウンドが使用できなくなるため、利用が集中しないように、新たに体育館を整備している。また寒冷のため、夏季の屋外プール使用期間が短いことや児童生徒の体格差等も配慮し、屋内プールの整備も行っている。

プレイコート



低学年の児童が校庭で安心して遊べるように校舎付近に遊具や、天然芝生のプレイコートを整備している。

3. 地域と共にある学校施設の整備

語り部の部屋



郷土資料室



和室で囲炉裏のある語り部の部屋では地域の住民を招き民話学習や茶道教室等を行っている。

郷土資料室は、郷土が生んだ文学者や芸術家等の作品コーナーを設け、総合的な学習の時間などで、郷土の偉人についての学習を行っている。

校長の視点から

こやま たけゆき
湖南小中学校 校長 小山 健幸

本校が目指す小中一貫教育重点事項の一つに、「表現力の育成」があげられます。学習の成果を伝えあう場や、発表する機会を多く教育活動に取り入れたいという理由から、291㎡ある多目的ホールを設置しました。多目的ホールでは、児童生徒同士の発表会、始業式、終業式や地域の方々を招いた様々な行事等を行っています。さらに、地域人材を活用した表現力育成を目指して、民話学習ができる語り部の部屋や郷土の偉人を紹介した郷土資料室が設けられ、「ふるさと湖南誇りを胸に」の育成に役立っています。

事4 茨城県つくば市立春日学園

新築

春日学園

茨城県 つくば市立春日小学校・春日中学校



校舎外観

背景

つくばエクスプレスの開通に伴い、研究学園都市駅周辺の住宅開発が進み、人口が急増。このため、施設一体型の小中一貫校の新設を計画、平成24年4月に開校した。

春日学園は、つくば市で初めての施設一体型校である。つくば市では、平成24年度から、市内の全小・中学校53校（15学園）において、小中一貫教育を本格実施している。

		学年								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
運営状況	学年段階の区切り	前期				中期			後期	
	授業方法	学級担任制					教科担任制			
	運営方式	特別教室型								
	授業時間	45分					50分			
	校長	校長1人								
	副校長・教頭	小学校教頭1人					中学校教頭1人			
	部活動	なし					部活動			
	PTA	PTA組織を一本化								
	ゾーニング	1階	2階	1階	3階	2階	3階			
	施設利用状況	校長室	特別教室棟1階							
職員室		特別教室棟1階(校務センター)								
保健室		特別教室棟1階								
特別支援学級		特別教室棟1階								
音楽室		特別教室棟1階				特別教室棟3階				
家庭科室		なし				特別教室棟3階				
図書室		特別教室棟2階								
ランチルーム		なし								
昇降口		普通教室棟1階								
体育館		1階								
グラウンド		サブグラウンド				グラウンド				
プール	1階									
給食室	特別教室棟1～3階(給食センター方式)									

学校概要

学校規模	[小] 普通: 34学級(1163人) 特別支援: 2学級(11人)
	[中] 普通: 9学級(288人) 特別支援: 2学級(2人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成24年(2012年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	46,628㎡
延床面積	14,718㎡

教育上の特色

「未来を拓き、社会に貢献できる人材の育成」を教育目標とし、9年間の継続的な学びを通して「論理的に考える力」「人と豊かにかかわる力」を育てることを重点においている。

5年生から部分的に教科担任制を導入するなど、4-3-2制を取り入れた柔軟な区切りを設けると共に、「考える時間」「つくばスタイル科」等、9年間の学びの連続性を活かしたカリキュラムを構築している。

また、兼務発令による中学校数学教員の小学算数授業、小・中学校教員による音楽のT・T授業や、大学や研究機関との連携によるロボットの授業等、多様で実践的な活動を行っている。

学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教育課程の編成や生徒指導の中心となる教諭や養護教諭、事務職員は兼務発令されており、小中相互の乗り入れ授業の実施、教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

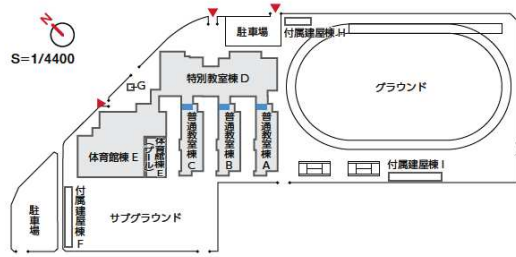
計画・設計のポイント

- 1.異学年交流スペースの充実
- 2.小中一貫した教育課程に対応した施設環境
- 3.学校運営の一貫性確保への対応

施設上の特色

- 普通教室棟は、体格差や発達段階、学年ごとの授業運営等に配慮し棟形式としている。各普通教室棟（3棟）、特別教室棟、体育館棟は全て南北、東西方向に抜けるスクールアベニュー及び2階・3階の渡り廊下によってつながれており、児童生徒・教職員の交流を促進するとともに、大規模校でありながらスムーズな生活動線を確保している。
- 特別教室や管理諸室は共用としており、特別教室棟は階によって科学・芸術・メディアといった分野ごとにまとめられて配置している。管理諸室は、スクールアベニューや校門、各棟出入口を見通せる位置に設けている。

配置図

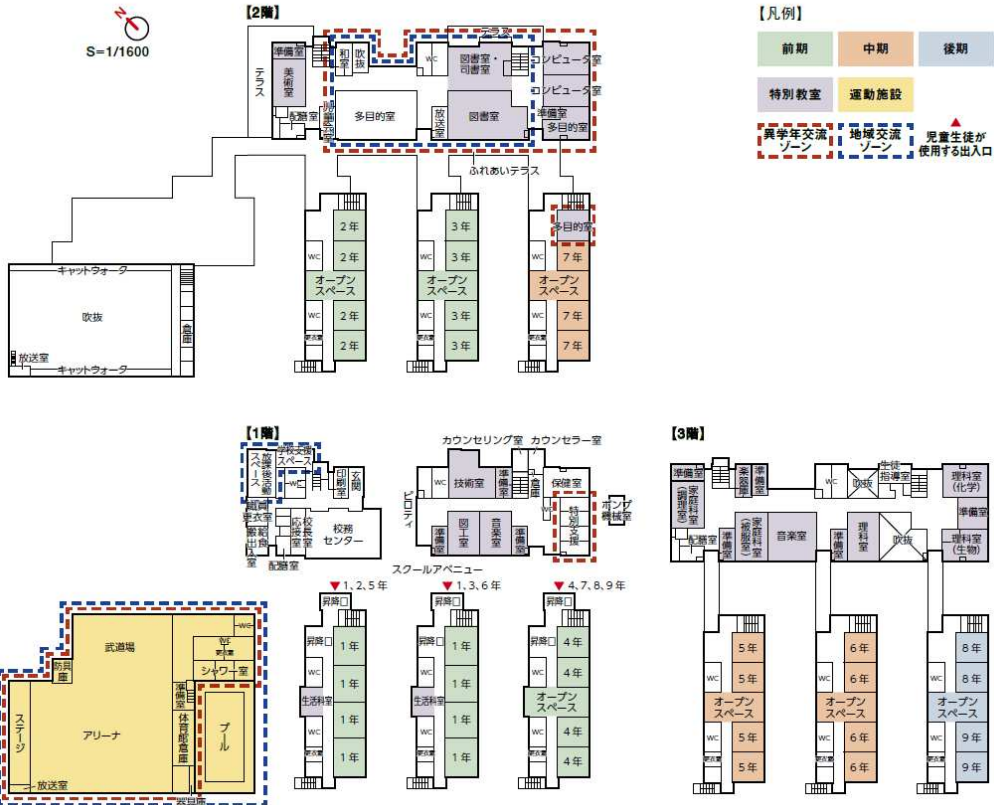


【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		新しい敷地			
面積	グラウンド	26,194m ²			
	校舎	小	4,046m ²	中	22,148m ²
		12,691m ²			
体育館	小	7,520m ²	中	5,171m ²	
	2,027m ²				
	小	1,006m ²	中	1,021m ²	

平面図



【凡例】

- 前期
- 中期
- 後期
- 特別教室
- 運動施設
- 異学年交流ゾーン
- 地域交流ゾーン
- 児童生徒が使用する出入口

1. 異学年交流スペースの充実

■ スクールアベニュー・渡り廊下



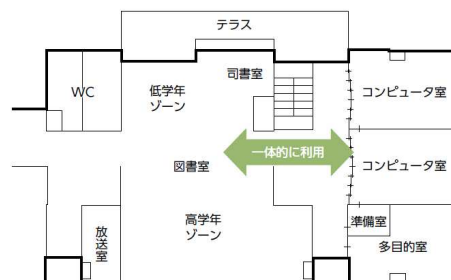
敷地の東西・南北および各棟をつなぐスクールアベニューと、各棟の2・3階をつなぐ渡り廊下は、分散している各棟をつなぐ動線としてだけでなく、コミュニケーションを促進する役割も果たしている。

■ 図書室



図書室は低学年と高学年でゾーンが設けられているが、全体的には間仕切りがなくオープンなつくりとなっており、異学年の自然な交流ができる空間となっている。低学年ゾーンの閲覧スペースには、木よりも柔らかいコルク床を採用している。高学年ゾーンでは落ち着いて読書や調べ物学習に取り組めるように机や本棚を配置している。

■ コンピュータ室



コンピュータ室は図書室と同じフロアに配しメディアゾーンとして一体的な利用も可能となっている。家具が分散配置型となっており、交流授業で上級学年が指導に参加する際にも適した空間となっている。

事5 京都府宇治市立小倉小学校

京都府宇治市 おぐら 宇治市立小倉小学校

余裕教室を老人福祉施設へ転用

- ・老人福祉施設としての機能を備えた施設に改修
- ・動線や施設区分を明確に分けることで、管理負担を軽減

- 学校規模 / 24学級 731名
(特別支援学級 / 2学級 5名)
- 複合施設(床面積) / 小学校 (5,840㎡)
老人福祉施設 (1,024㎡)
- 整備時期 / 既存校舎：昭和54年
平成7年(老人福祉施設部分を改修)
- 構造 / RC造地上3階

施設整備に要した期間(構想・計画等から工事まで)

	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
構想・計画等				平成6年4月～9月設計
設計	平成3年9月～平成4年11月空き教室校村委員会 平成5年11月地方分権特例制度の許可			
工事			平成5年12月～平成7年3月改修工事	



既存校舎を改修し老人福祉施設に転用

施設整備の背景

- ・宇治市では平成6年に宇治市老人保健福祉計画を策定し、平成11年度までに、特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンター等の整備計画を策定していた。
- ・当時、小倉小学校には、12教室以上の余裕教室があったことから、これを老人デイサービスセンターに転用する計画とした。
- ・平成5年度に制度化された地方分権特例制度により、余裕教室の老人デイサービスセンターへの転用が特例措置の対象となったことが背景にある。

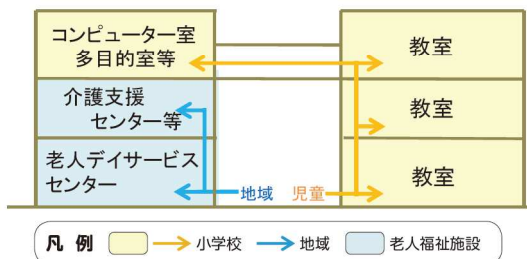
管理・運営の体制

施設	利用時間(平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校	←	→			教育委員会	教育委員会
老人福祉施設		←	→		市長部局	社会福祉法人

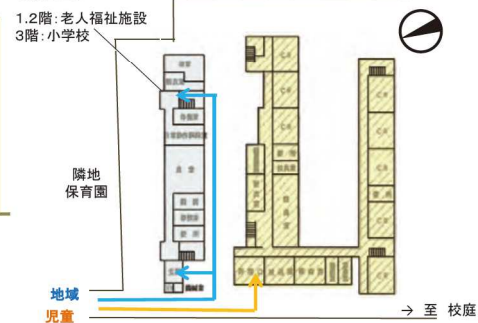
施設の配置・動線

- ・校舎は3つの棟があり、一番北側の校舎の1・2階部分を老人福祉施設に、3階部分を小学校のコンピューター室、多目的室等として改修。
- ・3階には、児童が外部や老人福祉施設を通らずに移動できる連絡通路を設置。
- ・両施設を区分して管理するために、通常時には学校と老人福祉施設をつなぐ階段は使用しておらず、非常時のみの使用としている。

<立面図>

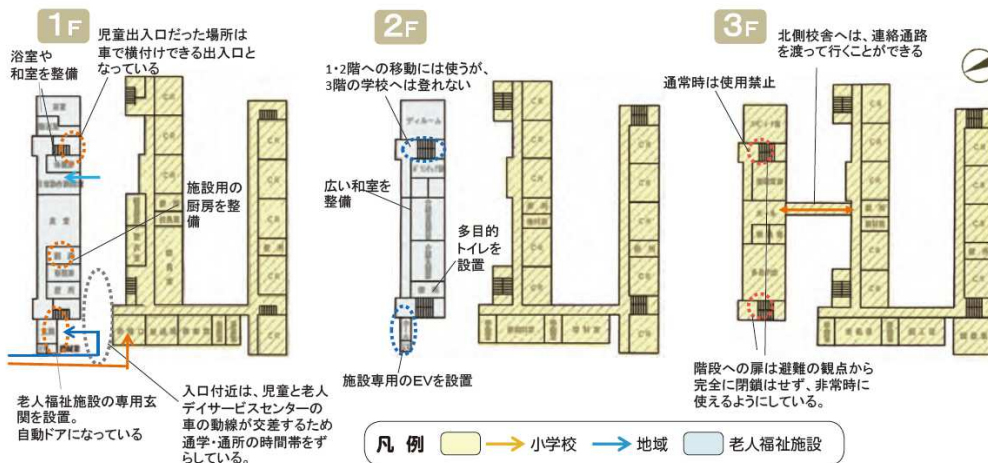


<配置図>



平面計画上の特徴

- ・施設内において、小学校と老人福祉施設の区画や動線は分けているが、避難経路の関係から、壁の設置や扉の施錠等といった完全な分離はしていない。
- ・校門付近では、児童と老人デイサービスセンターの車両の動線が重なる部分があるため、老人デイサービスセンターの利用時間を学校の通学時間とずらすなどの対策をとっている。



既存施設の改修

- ・元々は学校施設であった施設を老人福祉施設へ転用するに当たり、バリアフリーの観点から、出入口段差の解消や、多目的トイレ、エレベーター、自動ドア、手摺等の設置を行った。
- ・高齢者が快適に過ごせるように、障子や襖を設置したり、仕上げ材に木材を使用することで温かい雰囲気としている。
- ・抵抗力の低い高齢者が体調を崩さないように、床暖房を設置したり、熱を逃がさないようアコーディオンカーテンを適宜設置したりするなど工夫をしている。



畳や障子などを設置し、高齢者が落ち着ける空間としている。



暖房効果を高めるための工夫

→施設の用途や利用者の違いを考慮した改修の工夫が見られる。

施設の管理区分のための整備

- 防犯や管理区分の明確化を図るための施設の整備や対策も実施。
- ・老人福祉施設専用の玄関を設置し、既存階段も高齢者専用とした。
- ・転用施設の3階に扉を設置し、学校施設と老人福祉施設を分離
- ・児童が老人福祉施設を通らずに転用施設3階の部屋へアクセスできるように、渡り廊下を設置



二つの棟の3階部分を繋ぐ渡り廊下



階段前に扉を設置し施設を分離

複合施設とした効果

- ・当初は社会福祉施設の充実と財政負担の軽減を目的に整備。
- ・新たに用地を購入し、同様の社会福祉施設を整備する場合と比較して、5億円以上経費を削減。
- ・休み時間に、生徒と高齢者が折り紙等と一緒に楽しんだり、生徒の歌や演奏を高齢者に披露したりするなど、授業の一環として施設間の交流を積極的に実施しているほか、日常的に身近で生活することにより自然発生的な世代間交流も生まれている。

防犯対策・事故対策

- ・各校門に防犯カメラを設置しているほか、人や車の出入りが多いことから、8時から16時までは地域ボランティアが校内の巡回警備や誘導等を実施。
- ・児童と老人デイサービスセンターの車が接触しないように、デイサービスの通所時間を学校の通学時間とずらしている。
- ・避難訓練は年に3回実施し、うち1回は学校と高齢者福祉施設と合同で実施。なお、学校の各教室には緊急時のために電話と通報ボタンを設置。

委員の意見より

- ・大がかりな整備をせずに余裕教室を有効に活用した事例。今後、児童生徒数の減少に伴う余裕教室の有効活用が一層求められる中、このような老人福祉施設の整備は増えていくのではないかと。
- ・小学校と老人デイサービスセンター等との交流については、当初から意図されていたわけではなかったが、自然発生的に交流が生まれてきたとの話であった。複合化によって各施設の利用者が日常的に一緒にいることが、相互により良い効果を生むことが確認できた。

事6 富山県南砺市立利賀小学校・利賀中学校

富山県南砺市 南砺市立利賀小学校 南砺市立利賀中学校

地域に開かれた学校アーパス (All Persons' School)

- ・地域づくりは人づくり
- ・児童生徒のみならず村民の生涯にわたっての学習機会の保障
- ・十数回の検討会により村民の地域施設として結実

- 学校規模／小学校 3 学級 16 名
中学校 3 学級 18 名
- 複合施設(床面積)／小・中学校 (8,212㎡)
公民館 (1,522㎡)
- 整備時期／平成 10 年
- 構造／RC 造地上 4 階地下 1 階



敷地高低差を生かし各施設のアプローチを分離
(南砺市 HP より)

施設整備に要した期間 (構想・計画等から工事まで)

	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
構想・計画等		→	→	→	→	→	→
設計			→	→	→	→	→
工事			→	→	→	→	→

施設整備の背景

- ・旧利賀村において、少子高齢化、過疎化が進み、平成元年に2小学校の統合と中学校の老朽化に伴う改築の検討がされた。
- ・その後、社会教育施設を併設する村民のための複合教育施設構想の実現のため、文部省「文教施設インテリジェント化に関するパイロットモデル研究事業」により、基本計画を策定し実現した。

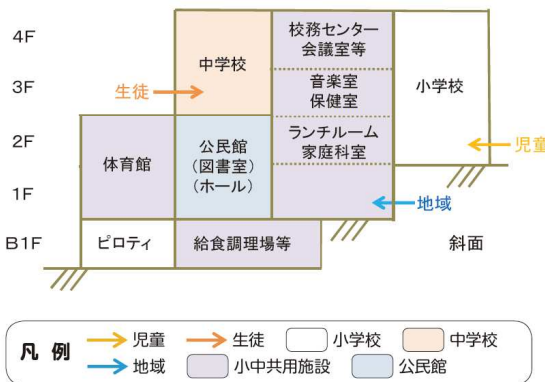
管理・運営の体制

施設	利用時間 (平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
小学校・中学校	←	→			教育委員会	教育委員会
公民館			←	→	教育委員会	教育委員会

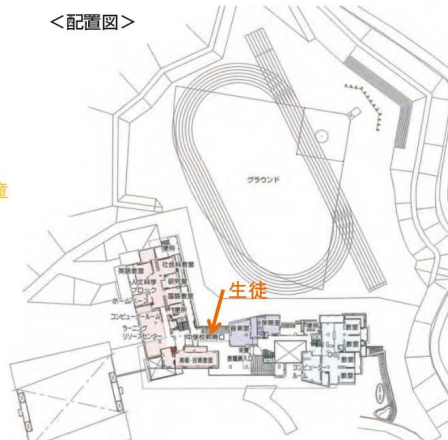
施設の配置・動線

- ・高低差を生かし、村民が主として利用する公民館は1階、小学校は2階、中学校は3階から各施設にアプローチする計画とし、内部は相互利用を想定した計画としている。

<立面図>



<配置図>



平面計画上的特徴

- ・小中学校共用の家庭科室や和室を、公民館と同じフロアとすることで地域の利用者の使用を容易にしている。
- ・学校と公民館の使用時間に応じ、格子扉等の開閉によりゾーン分けをしている。



相互利用・交流活動

- ・公民館では公民館内のホールや和室、図書室の利用受付だけでなく、19時以降の学校開放による体育館の利用や放課後子供教室の受付も行っている。
- ・アークホールは児童生徒の学習発表会や地域内の文化祭、民謡など伝統文化継承活動などに利用されている。
- ・公民館図書室は、児童生徒が授業で活用するだけでなく、放課後子供教室としても活用している。



学校開放等の受付も行う公民館受付



地域のスポーツ大会が開催される学校体育館



ホールにて伝統文化継承活動の一環として、民謡を練習する子供たち（同小HPより）



放課後子供教室にも活用される公民館図書室

➡ 3 施設が重複する機能をまとめ、相互利用を想定した計画とすることで、単独の学校、公民館にはない賑わい、活気を創出。

防犯面

- ・地域の方々に見守られているという安心感の中で、地域と学校が一緒になって子供たちを育てていくという考えのもと、学習参観や学校行事等に多くの方が参加する状況となっている。
- ・地域の方々も顔見知りであり、今まで不審者侵入などはないが、学校長は、児童生徒の避難方法について特に留意している。



区分管理のための格子状の扉



不審者訓練をする子供たち（同小HPより）

委員の意見より

- ・今後、山村留学を積極的に受け入れることにより、当該施設を一層有効に活用できるとよいのではないかと。
- ・穏やかな山村地域であり、互いが顔見知りの関係であることもあって施設の管理運営上の課題が大きいとは感じられないが、不審者の侵入について学校管理者には潜在的な不安がある。このため、防犯訓練も周到に行っている。
- ・小学校、中学校、公民館が一体化し、地域住民が集まりやすく、学校が地域に見守られている環境となっていることは評価できる。

参考資料2 市内の開発状況

平均の区画数(14.8)よりも区画の大きい開発
区画数100以上の大規模開発

NO	開発許可年次	住所	面積	区画数	備考
1	平成22年度	江島町長谷2355-1	1149.05m ²	4	
2		白子四丁目3048-1,3051-1	1996.77m ²	10	
3		安塚町今発973-1	2777.08m ²	11	
4		南玉垣町玉垣6196-1	1436.28m ²	10	共同住宅
5		若松西五丁目482-8	3576.65m ²	14	
6		神戸六丁目381-1	2742.59m ²	10	
7		十宮四丁目833	1955.16m ²	7	
8		道伯二丁目2058-1	2021.40m ²	8	
9		稲生西二丁目6805-1	1105.57m ²	5	
10		飯野寺家町門辺51-1	2047.57m ²	7	
11		若松西四丁目435-1	1628.50m ²	6	
12		算所三丁目921-3	4765.18m ²	19	
13		稲生一丁目542-1	4469.75m ²	18	
14		住吉四丁目6413-1	1651.65m ²	9	
15		東磯山一丁目2523	2512.90m ²	9	
16		稲生二丁目3450	1660.84m ²	6	
17	平成23年度	竹野一丁目593-1	2410.92m ²	10	
18		小田町西山田998-204	1890.98m ²	7	
19		末広西1820-76	9872.18m ²	37	
20		平野町門山889-1	1215.29m ²	4	
21		南旭が丘三丁目2086-3	1237.64m ²	4	
22		北長太町三宮神260	4789.61m ²	14	
23		江島町高塚544	1960.99m ²	8	
24		須賀一丁目1603	2276.27m ²	10	
25		大池一丁目856-4	2967.27m ²	12	
26		東玉垣町丸田1221-1	1687.00m ²	7	
27		江島町花野1662	1852.32m ²	7	
28		稲生塩屋三丁目1949-2	2979.57m ²	10	
29		弓削一丁目46-1	1224.51m ²	5	
30		須賀一丁目93	2624.61m ²	11	
31		寺家町新改1538-1	2004.92m ²	8	
32		矢橋三丁目301-2	1214.44m ²	6	
33		平成24年度	白子一丁目4095	1016.12m ²	4
34	十宮一丁目437-1		1552.68m ²	6	
35	南玉垣町新町2447-1		1070.28m ²	4	
36	高岡町七反縄655-1		1592.01m ²	7	
37	道伯町赤坂2186-2		2991.78m ²	9	
38	稲生塩屋三丁目2051-1		1137.25m ²	4	
39	十宮三丁目658-1		1740.20m ²	2	
40	平田東町1211		2006.71m ²	24	共同住宅
41	北江島町2367		3793.03m ²	12	
42	末広北三丁目5304-4		2187.65m ²	8	
43	江島町高塚544-7		1144.97m ²	4	
44	高岡町旭2660-4		2687.63m ²	10	
45	稲生町折戸7508-6		2811.59m ²	10	
46	平田本町二丁目552		3362.52m ²	12	
47	道伯四丁目1750-7		1091.22m ²	4	
48	南玉垣町玉垣6252-1		5004.57m ²	16	
49	東磯山四丁目1753-1	1541.08m ²	6		
50	南玉垣町玉垣6189-1	1023.10m ²	4		
51	稲生塩屋二丁目2468-1	1088.77m ²	4		
52	白子一丁目4095	1016.12m ²	4		
53	一ノ宮町七九郎縄1425	2911.58m ²	10		

平均の区画数(14.1)よりも区画の大きい開発
区画数100以上の大規模開発

NO	開発許可年次	住所	面積	区画数	備考	
54	平成25年度	桜島町七丁目19-2	3234.30m ²	15		
55		末広南一丁目5310-20	1239.30m ²	5		
56		道伯赤坂2186-2	2991.78m ²	10		
57		十宮三丁目658-1	1740.20m ²	2		
58		東旭が丘三丁目6768-3	1733.66m ²	7		
59		白子町生水2780-1	1678.86m ²	20	共同住宅	
60		東玉垣町山神戸2607	1271.93m ²	4		
61		南玉垣町新町2306-3	1694.62m ²	6		
62		野町南一丁目241-22	2005.10m ²	8		
63		岸岡町見当山2606-2	9816.61m ²	34		
64		白子町新地6872-1他	65987.67m ²	264		
65		郡山町野口795-6	1776.69m ²	6		
66		道伯二丁目2278-5	1803.85m ²	7		
67		西玉垣町市場1428-3	2924.51m ²	7		
68		道伯町赤禿山2139-1	63348.16m ²	172		
69		高岡台四丁目173-2	6001.47m ²	25		
70		稲生西三丁目7253	8050.11m ²	27		
71		道伯町五反田2072	1219.71m ²	2		
72		道伯二丁目2258-14	2900.84m ²	9		
73		安塚町舞造331-40他	9477.19m ²	33		
74		野町南一丁目241-20	1924.48m ²	8		
75		江島町長谷2442-1	1203.31m ²	5		
76		平田本町一丁目299-2	2889.74m ²	7		
77		中旭が丘三丁目7257-1	5306.48m ²	24		
78		末広北三丁目5304-10	2386.68m ²	9		
79		十宮四丁目522-1	5878.48m ²	22		
80		一ノ宮町別明1309-1	2899.36m ²	11		
81		南玉垣町一色2232-5	6123.96m ²	20		
82		東玉垣町北浦2902-1	1039.31m ²	4		
83		平成26年度	稲生塩屋三丁目2064-1	2345.45m ²	10	
84			郡山町西高山663-705	3434.90m ²	12	
85			南玉垣町玉垣4558-1他	2999.90m ²	14	
86			肥田町寺垣内348	3223.35m ²	13	
87			十宮三丁目882-1	2645.65m ²	9	
88	西玉垣町市場1440-1		2828.35m ²	11		
89	北玉垣町根洞1871-2他		2748.53m ²	11		
90	岸岡町岩ヶ谷2573-8		2227.05m ²	7		
91	稲生塩屋三丁目2058-1		2675.65m ²	11		
92	稲生塩屋二丁目2069-1他		2271.29m ²	10		
93	中旭が丘二丁目7349-1		1882.90m ²	8		
94	神戸四丁目662		1801.98m ²	8		
95	岸岡町野口567他		2298.64m ²	18	共同住宅	
96	東玉垣町山神戸2599-4		2352.25m ²	7		
97	十宮四丁目805-7		2197.58m ²	8		
98	平成27年度	平田本町一丁目284	1940.55m ²	9		
99		南玉垣町玉垣6603-22	9557.24m ²	44		
100		算所五丁目337-1	1489.79m ²	6		
101		安塚町今堯879-2	2242.18m ²	10		
102		野辺一丁目764	1467.99m ²	6		
103		末広北二丁目5600	1007.46m ²	19	共同住宅	
104		野町南一丁目241-36	2572.92m ²	9		
105		下箕田四丁目326-1	2505.65m ²	10		
106		稲生塩屋二丁目2914	2729.98m ²	11		
107		南旭が丘二丁目1545	1559.59m ²	6		
108	白子町網田坊3712-1	1503.17m ²	7			
109	平成28年度	一ノ宮町池575-4	5716.30m ²	20		
110		十宮四丁目827-1	2523.07m ²	9		
111		安塚町今堯1088-1	2641.28m ²	12		
112		鈴鹿ハイツ7992-1089	1408.90m ²	6		
113		道伯一丁目2256-9	1983.07m ²	4		
114		中旭が丘二丁目7354-1	1971.76m ²	9		
115		岸岡町雲雀山2693-3	2948.24m ²	11		
116		末広北二丁目5606	2134.80m ²	10		
117		平田東町1172	1860.00m ²	21	共同住宅	
平均				14.1		